

日本消防



- 第23回全国消防操法大会に優勝して
- ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」出演者紹介



1
2013

- 絵 平成25年東京消防出初式 H25.1.6 (日) 東京ビッグサイト
- 平成25年大阪府河内長野市消防出初式 H25.1.13 (日)
- 平成25年埼玉県坂戸・鶴ヶ島消防組合消防出初め式 H25.1.6 (日)
- ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」好評放送中！ (財)日本消防協会

新春のご挨拶	(財)日本消防協会 会長 秋本 敏文	1
年頭の辞	消防庁長官 岡崎 浩巳	2
年頭の辞	全国消防長会会長 北村 吉男	3
平成24年秋の叙勲(消防関係)	総務省 消防庁	4
平成24年版消防白書の概要	総務省 消防庁 防災課	17
ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」出演者紹介	(財)日本消防協会	23
特別表彰「まとい」を受章して「芭蕉と忍者の故郷伊賀市を守る」	三重県伊賀市消防団 団長 今岡 久人	26
東西南北(神奈川県)「日本一元気な消防団」を目指して	南足柄市消防団 団長 瀬戸 均	28
東西南北(埼玉県)「我がまち“はにゅう”を我が手で守る羽生市消防団」	羽生市消防団 団長 西田 哲三	30
東西南北(鹿児島県)「地域と一体となった消防団活動」	南さつま市消防団 団長 東馬場 伸	32
シンフォニー(福島県)「明るい防火・防災活動をめざして」	新地町消防団 団員 山田 裕貴子	34
シンフォニー(長崎県)「ラッパ隊で島の華になる！」...小値賀町消防団 本部員 班長 畑村 早織	36
第23回全国消防操法大会ポンプ車の部に優勝して	岡山県和気町消防団 団長 坂本 延夫	38
第23回全国消防操法大会の小型ポンプの部に優勝して	長崎県壱岐市消防団 石田地区 第二分団 第三小隊 小隊長 江口 正弘	40
女性消防団員リーダー会議について	(財)日本消防協会	42
林野火災を防ごう！～全国山火事予防運動～	総務省 消防庁 特殊災害室	44
うちの名物団員	45
消防団の広場(香川県)「はしご乗り」を活かした防火活動	さぬき市消防団 団長 石川 廣	46

2月の日本消防協会関係行事
編集後記

表紙写真説明

「大雄山最乗寺 雪の高下駄」

大雄山最乗寺は、了庵慧明りょうあん えいみょうぜんじ禅師によって応永元年(1394年)に開山された曹洞宗こざうの古刹です。了庵慧明禅師が最乗寺を建立することを聞いた弟子のどうりょうせんじや道了尊者は、近江の三井寺から天狗の姿になって飛んできて神通力を使って寺の建設に大きく貢献しました。そして了庵慧明禅師がこの世を去ると寺を永久に守るため、山中深くに飛び去ったといわれています。以来、寺の守護神として祀られ、多く人の信仰を集め、境内にはたくさんの下駄が奉納されています。下駄は左右一対そろって役割を果たすことから夫婦円満に通じるといわれています。(神奈川県南足柄市)

平成25年東京消防出初式

平成25年1月6日（日） 東京ビッグサイト



平成25年大阪府河内長野市 消防出初式

平成25年1月13日（日）

平成25年埼玉県坂戸・鶴ヶ島 消防組合消防出初め式

平成25年1月6日（日）



ラジオ番組
「おはよう！ニッポン全国消防団」
好評放送中！
(財)日本消防協会



10月放送に出演の
千葉紘子さん(左)

山本剛士ニッポン放送アナウ
ンサー(右)

11月放送に出演の
水香さん(左)



12月放送に出演の
西川きよしさん(左)



新春のご挨拶

財団法人 日本消防協会 会長 秋本 敏文



平成25年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

全国の消防団員、消防職員の皆様が、地域の安心・安全を守るため、日夜献身的なご尽力をされていることに対し、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

一昨年三月、東日本大震災が発生しました。巨大な津波などで極めて大きな被害が生ずる中、消防は発災直後から目覚ましい活動を行い、国民の皆さんから高く評価され、感謝されました。しかしながら一方で、未だかつてない多くの方々が殉職されました。正に痛恨の極みであり、このようなことは決して繰り返してはならないと思います。

東日本大震災以来、各地で大規模な地震発生 of 切迫性が指摘されております。また、昨年は九州北部や日本各地で豪雨による大きな被害が生じました。まさに日本中、いつでも、どこでも、あらゆる災害が起こり得るという覚悟をしていなければならない状況になりました。その中で国民の大きな願いである安心・安全を確保するためには、常備消防・消防団を問わず全ての消防関係者が一致協力して、消防防災の使命達成にさらに邁進しなければなりません。また、地域においては、消防団が中心となって婦人防火クラブ、企業、各種団体、さらには自主防災組織などを含む一般の皆さんと一体となった総合的な防災力を強化する必要があります。こうした動きの中で、消防に対する国民の期待はますます大きくなり、その役割もさらに重要なものになると思います。日本消防協会では、安全対策を含む装備や処遇の改善等消防団の活動環境の整備や団員確保対策に引き続き全力を傾注して参ります。

今年 は自治体消防65周年の年です。また、明治27年の消防組規則制定によって、現在の消防団の前身である消防組が全国的にスタートして以来、120年を迎えます。そこで、11月25日（月）、全国消防長会とともに消防庁など関係機関のご支援を頂き、東京ドームで消防団120年・自治体消防65周年の記念大会を開催することとしております。

この大会は、これまで百年以上の間、様々な災害を経験し、これを乗り越えてきた消防の伝統を振り返りながら、東日本大震災後の我が国消防のあり方を考えるとともに、消防関係者の絆を一層強く固め、国民の皆さんのご理解を得ながら消防がさらなる充実発展をとげる契機にしたいと思っております。

最後に、全国の消防関係の皆様がますますご壮健で、地域の安心安全と郷土の発展のため、一層のご活躍をいただきますよう衷心よりお祈りして、年頭のご挨拶といたします。

年 頭 の 辞

消防庁長官 岡崎 浩巳



平成25年の新春を迎えるに当たり、平素から地域の安心・安全を守るため、昼夜を分かたず消防防災活動にご尽力頂いております全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昭和23年に消防組織法が施行されて、市町村消防を原則とする我が国の「自治体消防制度」が誕生し、65年を迎えようとしています。この間、我が国の消防は、関係各位のたゆまぬ努力の積み重ねにより、着実に進展し、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしてきました。

平成23年3月に発生した東日本大震災は、これまでに経験したことのない大地震と巨大津波により各地に甚大な被害をもたらすとともに、福島第一原子力発電所の事故が発生しました。また、その後も、災害は後を絶たず、去年は竜巻や豪雨による災害に加え、ホテル火災やコンビニート施設における火災、トンネル内の爆発事故など、様々な災害が全国各地で発生しました。

このような状況下において、国民の生命、身体及び財産を守るため、今後の大規模災害等に備えた、更なる消防防災体制の強化を図ることが喫緊の課題となっております。

このため、消防庁においては、Jアラートの自動起動機等の整備や消防救急無線のデジタル化による災害に強い消防防災通信基盤の強化、消防団の充実強化や安全対策の推進、緊急消防援助隊の充実と即応体制の強化を図ってまいります。

このほか、ホテル・旅館等における、立入検査及び違反処理の推進や新たな表示制度等を含めた火災予防対策、福島第一原子力発電所の避難指示区域における管轄消防機関の支援や原子力災害に係る地域防災計画の策定支援などに取り組んでまいります。

皆様方におかれましても、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 の 辞

全国消防長会会長 北村 吉男



平成25年の輝かしい新春を迎え、全国の消防関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

消防団員の皆様方におかれましては、各種災害から住民の生命、身体、財産を守るため、平素の訓練や災害対応はもとより、震災等大規模災害発生時には、関係機関等と連携した活動に従事されるなど、昼夜を分かたず住民が安心して生活できる地域づくりに全力を挙げ、多大な貢献をされております。

ここに改めて、深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

さて、近年、全国各地におきましては、地震や竜巻、台風、集中豪雨などの自然災害により、多くの尊い人命と貴重な財産が失われるなど、甚大な被害が発生しております。

また、東海地震、東南海・南海地震、首都直下地震の発生が危惧されるほか、ホテルや危険物施設の火災など、特異な災害も発生しており、安心・安全に対する国民の関心は一段と高まりをみせ、常備消防はもとより、地域防災の要として活動されている消防団に寄せられる住民の期待は、ますます大きくなっております。

このような状況の中、全国消防長会といたしましては、「震災等大規模災害対策の推進」「広域消防応援体制の充実・強化」「消防の広域化への対応」「消防救急無線の広域化・共同化及び消防指令業務の共同運用への対応」「救急搬送体制の強化、救急業務高度化への対応及び市民等への応急手当普及促進」「防火対象物等の防火・防災安全対策の推進」「危険物施設の事故防止対策の推進」「消防職員の処遇改善と安全管理対策の更なる推進」の8項目を重点施策として、各種事業を積極的に推進するとともに、地域の防災行動力の更なる向上を図るため、消防団員の活動環境確保などの諸施策を関係機関と連携しながら展開してまいります。

「自らの地域は自ら守る」という郷土愛の精神からなる消防団員の存在は、地域の安心・安全のために、今後ますます重要性を増すとともに、その活躍が大いに期待されているところであります。

全国消防長会といたしましても、今後とも皆様方をはじめ、関係機関との連携をより緊密にし、安全で安心な地域社会の実現に向けて、全力を挙げて取り組んでまいります。

皆様におかれましても、地域の安全確保のため、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方が地域の防災リーダーとしてますますご活躍されますとともに、本年が災害のない平穏な年になりますことを心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

平成24年秋の叙勲（消防関係）

総務省消防庁

平成24年秋の叙勲（消防関係）受章者は、587名で勲章別内訳は次のとおりです。

旭日小綬章	1名
瑞宝小綬章	27名
旭日双光章	2名
瑞宝双光章	81名
瑞宝单光章	476名
計	587名

受章者は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与された方々です。

○ 伝達式日程

- 1 日 時 11月15日（木）11時15分～11時45分
- 2 場 所 ニッショーホール
港区虎ノ門二丁目9番16号

平成24年秋の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名（年齢）
瑞 小	北 海 道	元 札幌市 消防正監	新 家 磨 (71)	瑞 双	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合共和消防団 団長	横 川 芳 春 (77)
瑞 小	北 海 道	元 旭川市 消防正監	高 田 朋 英 (73)	瑞 単	北 海 道	元 南空知消防組合栗 山消防団 団長	相 田 浩 (74)
瑞 小	北 海 道	元 札幌市 消防正監	野 村 好 治 (75)	瑞 単	北 海 道	元 登別市消防団 副団長	泉 一 夫 (73)
瑞 双	北 海 道	元 斜里地区消防組合 清里消防団 団長	片 岡 保 弘 (74)	瑞 単	北 海 道	元 上川南部消防事務 組合中富良野消防 団副団長	大 塚 良 夫 (75)
瑞 双	北 海 道	元 遠軽地区広域組合 湧別町消防団 団長	兒 玉 満 夫 (78)	瑞 単	北 海 道	元 札幌市北消防団 分団長	梶 浦 忠 (84)
瑞 双	北 海 道	元 西胆振消防組合杜 警消防団 団長	斉 藤 稔 (84)	瑞 単	北 海 道	元 釧路西部消防組合 阿寒消防団 副団長	加 藤 成 男 (80)
瑞 双	北 海 道	元 札幌市西消防団 団長	作 田 康 次 (79)	瑞 単	北 海 道	元 深川地区消防組合 深川消防団 分団長	印 牧 久 俊 (72)
瑞 双	北 海 道	元 西十勝消防組合清 水消防団 団長	柴 野 誠 二 (74)	瑞 単	北 海 道	元 稚内地区消防事務 組合稚内消防団 分団長	釜 澤 一 男 (83)
瑞 双	北 海 道	元 日高東部消防組合 えりも町消防団 団長	砂 原 勲 (73)	瑞 単	北 海 道	元 斜里地区消防組合 斜里消防団 団長	近 藤 正 廣 (71)
瑞 双	北 海 道	元 東十勝消防事務組 合幕別消防団 団長	田 所 富 男 (74)	瑞 単	北 海 道	元 北十勝消防事務組 合音更消防団 副団長	佐々木 仁 臣 (73)
瑞 双	北 海 道	元 日高西部消防組合 門別消防団 団長	細 川 育 男 (76)	瑞 単	北 海 道	元 恵庭市消防団 分団長	澤 田 松 男 (74)
瑞 双	北 海 道	元 白糠消防団 団長	矢 谷 正 男 (80)	瑞 単	北 海 道	元 日高西部消防組合 平取消防団 副団長	三 城 正 明 (74)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	北 海 道	元 根室市消防団 副団長	三 戸 光 雄 (75)	瑞 単	北 海 道	元 渡島西部広域事務 組合木古内消防団 副団長	西 嶋 一 男 (80)
瑞 単	北 海 道	元 池北三町行政事務 組合陸別消防団 団長	清 水 薫 (72)	瑞 単	北 海 道	元 釧路北部消防事務 組合弟子屈消防団 副分団長	野 田 孝 (79)
瑞 単	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合新十津川 消防団分団長	高 木 富 義 (74)	瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合 乙部町消防団 分団長	服 部 建 士 (73)
瑞 単	北 海 道	元 大雪消防組合美瑛 消防団 副団長	武 田 章 司 (78)	瑞 単	北 海 道	元 旭川市消防団 分団長	波 能 宗 博 (75)
瑞 単	北 海 道	元 八雲町熊石消防団 副団長	橋 正 (78)	瑞 単	北 海 道	元 士別地方消防事務 組合和寒町消防団 団長	馬 場 宣 昭 (73)
瑞 単	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合岩内消防団 副団長	田 中 勝 芳 (76)	瑞 単	北 海 道	元 胆振東部消防組合 鶴川消防団 分団長	林 均 (72)
瑞 単	北 海 道	元 富良野地区消防組 合南富良野消防団 副分団長	辻 澤 廣 (79)	瑞 単	北 海 道	元 網走地区消防組合 網走消防団 分団長	平 瀬 幸 四郎 (72)
瑞 単	北 海 道	元 渡島東部消防事務 組合般法華消防団 分団長	辻 英 博 (73)	瑞 単	北 海 道	元 小樽市消防団 分団長	藤 田 孝 雄 (77)
瑞 単	北 海 道	元 上川中部消防組合 鷹栖消防団 副団長	筒 井 良 一 (75)	瑞 単	北 海 道	元 砂川地区広域消防 組合奈井江消防団 副団長	松 本 良 正 (74)
瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合古 平消防団 副団長	常 本 利 男 (79)	瑞 単	北 海 道	元 羊蹄山ろく消防組 合俱知安消防団 分団長	巳 赤 仁 三郎 (77)
瑞 単	北 海 道	元 赤平市消防団 副分団長	戸 田 嘉 喜 (69)	瑞 単	北 海 道	元 北見地区消防組合 留辺蘂消防団 副団長	村 井 弘 司 (71)
瑞 単	北 海 道	元 北広島市消防団 副分団長	中 島 孝 一 (77)	瑞 単	北 海 道	元 北留萌消防組合羽 幌消防団 分団長	山 田 義 信 (78)
瑞 小	青 森 県	元 下北地域広域行政 事務組合 消防正監	福 嶋 雄 次郎 (70)	瑞 単	青 森 県	元 野辺地町消防団 分団長	藤 谷 太 一郎 (74)
瑞 単	青 森 県	元 八戸市消防団 分団長	伊 藤 一 紀 (72)	瑞 単	青 森 県	元 岩崎村消防団 副団長	増 富 竹 弘 (74)
瑞 単	青 森 県	元 三厩村消防団 分団長	伊 藤 廣 之 (78)	瑞 単	青 森 県	元 平賀町消防団 分団長	三 浦 明 次 (75)
瑞 単	青 森 県	元 青森市青森消防団 副団長	小笠原 賢 一 (71)	瑞 単	青 森 県	元 弘前市消防団 副団長	村 田 芳 美 (73)
瑞 単	青 森 県	元 風間浦村消防団 副団長	木 下 功 (70)	瑞 単	青 森 県	元 市浦村消防団 分団長	米 谷 慶 治 (76)
瑞 単	青 森 県	元 田子町消防団 分団長	沢 口 富 雄 (72)	瑞 双	岩 手 県	元 一戸町消防団 団長	内 田 秀 男 (67)
瑞 単	青 森 県	元 六戸町消防団 分団長	下 田 勇 一 (74)	瑞 双	岩 手 県	元 奥州市水沢区消防 団 団長	高 橋 整 (73)
瑞 単	青 森 県	元 十和田湖町消防団 副団長	高 野 幸 雄 (71)	瑞 双	岩 手 県	元 八幡平市消防団安 代地区団 団長	富 山 義 雄 (70)
瑞 単	青 森 県	元 天間林村消防団 分団長	附 田 與 一 (75)	瑞 双	岩 手 県	元 紫波町消防団 団長	八重樫 茂 (71)
瑞 単	青 森 県	元 五戸町消防団 副団長	中 里 才 吉 (73)	瑞 単	岩 手 県	元 江釣子村消防団 副団長	伊 藤 安 雄 (80)
瑞 単	青 森 県	元 五所川原市消防団 副団長	長 澤 正 美 (75)	瑞 単	岩 手 県	元 滝沢村消防団 団長	上 野 登 (70)
瑞 単	青 森 県	元 むつ市消防団 分団長	比 面 澤 良 政 (73)	瑞 単	岩 手 県	元 岩泉町消防団 副団長	太 田 孝 志 (70)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	岩 手 県	元 陸前高田市消防団 副分団長	菅 野 忠 孝 (82)	瑞 単	岩 手 県	元 二戸市消防団 分団長	兵 澤 兼 一 (80)
瑞 単	岩 手 県	元 種市町消防団 分団長	久 保 田 健 (82)	瑞 単	岩 手 県	元 山田町消防団 分団長	平 山 林 盛 (76)
瑞 単	岩 手 県	元 野田村消防団 副分団長	坂 下 留 藏 (80)	瑞 単	岩 手 県	元 岩手町消防団 分団長	村 山 勝 見 (76)
瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 分団長	佐 々 木 隆 (71)	瑞 単	岩 手 県	元 湯田町消防団 分団長	山 本 雅 彦 (71)
瑞 単	岩 手 県	元 宮古市消防団 分団長	佐 々 木 利 一 (72)	瑞 小	宮 城 県	元 塩釜地区消防事務 組合 消防正監	渡 邊 杜 夫 (70)
瑞 単	岩 手 県	元 石鳥谷町消防団 分団長	佐 藤 公 也 (80)	瑞 単	宮 城 県	元 富谷町消防団 副団長	浅 野 鐵 夫 (71)
瑞 単	岩 手 県	元 遠野市消防団 副団長	鈴 木 次 男 (72)	瑞 単	宮 城 県	元 小牛田町消防団 分団長	熱 海 清 人 (79)
瑞 単	岩 手 県	元 西根町消防団 副分団長	竹 田 一 正 (85)	瑞 単	宮 城 県	元 矢本町消防団 分団長	熱 海 寅 雄 (85)
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 団長	竹 田 祐 三 (72)	瑞 単	宮 城 県	元 登米市米山町消防 団 副団長	阿 部 清 昭 (71)
瑞 単	岩 手 県	元 平泉町消防団 分団長	千 槩 功 (75)	瑞 単	宮 城 県	元 塩竈市塩竈消防団 団長	阿 部 喜 一 (70)
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 副団長	千 槩 進 (78)	瑞 単	宮 城 県	元 岩出山町消防団 分団長	五十嵐 興 之 (84)
瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 分団長	中 野 静 夫 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 南三陸町歌津消防 団 副団長	及 川 秀 雄 (72)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市秋保消防団 副団長	太 田 信 芳 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 柴田町消防団 分団長	高 橋 清 和 (79)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市太白消防団 団長	太 田 一 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 金成町消防団 分団長	千 槩 良 一 (79)
瑞 単	宮 城 県	元 登米市東和町消防 団 副団長	小 野 寺 高 夫 (73)	瑞 単	宮 城 県	元 塩竈市浦戸消防団 副団長	長 南 兼 夫 (72)
瑞 単	宮 城 県	元 気仙沼市消防団 分団長	小 野 寺 行 雄 (80)	瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城消防団 副団長	早 坂 輝 雄 (70)
瑞 単	宮 城 県	元 岩出山町消防団 分団長	加 藤 軍 男 (83)	瑞 単	宮 城 県	元 気仙沼市消防団 副団長	前 田 康 太 郎 (73)
瑞 単	宮 城 県	元 三本木町消防団 分団長	桑 添 孝 一 (83)	瑞 単	宮 城 県	元 石巻市石巻消防団 副団長	三 浦 忠 (76)
瑞 単	宮 城 県	元 角田市消防団 分団長	齋 藤 徳 榮 (82)	瑞 単	宮 城 県	元 大郷町消防団 分団長	吉 田 豊 一 郎 (81)
瑞 単	宮 城 県	元 村田町消防団 分団長	佐 藤 高 男 (80)	瑞 単	宮 城 県	元 亘理町消防団 分団長	渡 邊 好 正 (81)
瑞 単	宮 城 県	元 大河原町消防団 分団長	佐 藤 文 雄 (86)	瑞 双	秋 田 県	元 由利本荘市消防団 団長	高 橋 久 (68)
瑞 単	宮 城 県	元 栗駒町消防団 分団長	佐 藤 登 (81)	瑞 単	秋 田 県	元 男鹿市消防団 副団長	秋 山 賢 司 (72)
瑞 単	宮 城 県	元 矢本町消防団 副団長	桒 石 昭 一 (70)	瑞 単	秋 田 県	元 二ツ井町消防団 分団長	池 端 正 光 (79)
瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 分団長	平 喜 代 人 (74)	瑞 単	秋 田 県	元 西木村消防団 団長	伊 藤 博 氏 (74)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	秋 田 県	元 大館市消防団 分団長	おお たい ぶん 豊 (75)	瑞 単	秋 田 県	元 大館市消防団 副団長	た ぶん 村 喜 徳 (71)
瑞 単	秋 田 県	元 雄物川町消防団 副団長	おの の 野 金 一 (72)	瑞 単	秋 田 県	元 昭和町消防団 分団長	あ しの 良 武 雄 (78)
瑞 単	秋 田 県	元 潟上市消防団 副団長	さき ち 地 すま 進 (71)	瑞 単	秋 田 県	元 河辺町消防団 分団長	か べ の 木 善 信 (76)
瑞 単	秋 田 県	元 協和町消防団 分団長	き かわ 川 庄 太郎 (74)	瑞 単	秋 田 県	元 男鹿市消防団 分団長	お っ 浦 文 夫 (74)
瑞 単	秋 田 県	元 雄和町消防団 分団長	お っ 藤 賢 蔵 (76)	瑞 単	秋 田 県	元 烏海町消防団 分団長	く せ の 村 上 二 造 (76)
瑞 単	秋 田 県	元 山内村消防団 分団長	やま の 内 村 佐 市 (79)	瑞 単	秋 田 県	元 二ツ井町消防団 分団長	ふ た つ 井 吉 岡 作 二 (83)
瑞 単	秋 田 県	元 協和町消防団 分団長	き かわ 藤 憲 男 (75)	瑞 単	秋 田 県	元 男鹿市消防団 団長	お っ 渡 邊 久 治 郎 (69)
瑞 単	秋 田 県	元 五城目町消防団 副団長	い ち ね 嶋 崎 貢 (75)	瑞 双	山 形 県	元 最上町消防団 団長	も っ 上 板 垣 隆 (72)
瑞 単	秋 田 県	元 羽後町消防団 副団長	は ね の 鈴 木 清 綱 (71)	瑞 双	山 形 県	元 米沢市消防団 団長	あ ね の 太 田 元 (72)
瑞 単	秋 田 県	元 仙北町消防団 副団長	せん ぺ いて 須 田 末 生 (73)	瑞 単	山 形 県	元 戸沢村消防団 分団長	と ざ の 安 食 捷 雄 (70)
瑞 単	秋 田 県	元 河辺町消防団 分団長	か べ の 関 一 男 (74)	瑞 単	山 形 県	元 尾花沢市消防団 分団長	お っ 花 沢 の 押 切 晃 (71)
瑞 単	秋 田 県	元 横手市十文字消防団 団長	よこ て の 高 橋 和 一 (69)	瑞 単	山 形 県	元 朝日村消防団 団長	あ した の 小 野 寺 善 彌 (65)
瑞 単	山 形 県	元 真室川町消防団 分団長	ま む じ り の 庄 司 忠 美 (69)	瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 副団長	あ ぐ だ の 伊 藤 耕 一 郎 (69)
瑞 単	山 形 県	元 鮭川村消防団 副団長	さ け の 川 の 八 鐵 正 弘 (65)	瑞 単	福 島 県	元 三島町消防団 団長	あ づ みの 金 子 喬 (68)
瑞 単	山 形 県	元 鶴岡市消防団 分団長	つ づ きの 渡 部 和 生 (74)	瑞 単	福 島 県	元 桑折町消防団 団長	あ ぐ だ の 佐 々 木 源 (69)
瑞 双	福 島 県	元 柳津町消防団 団長	あ ぐ だ の 伊 藤 薫 (74)	瑞 単	福 島 県	元 須賀川市消防団 副団長	あ ぐ だ の 塩 田 和 幸 (76)
瑞 双	福 島 県	元 双葉町消防団 団長	ふ た ば 葉 の 釘 野 雄 一 (75)	瑞 単	福 島 県	元 猪苗代町消防団 分団長	あ ぐ だ の 鈴 木 榮 太 郎 (76)
瑞 双	福 島 県	元 いわき市消防団 団長	い わ きの 佐 藤 久 男 (70)	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	あ ぐ だ の 丹 野 駿 一 (67)
瑞 双	福 島 県	元 滝根町消防団 団長	た きの 根 の 佐 藤 義 博 (70)	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	あ ぐ だ の 二 階 堂 高 治 (74)
瑞 双	福 島 県	元 福島市消防団 団長	あ ぐ だ の 穴 戸 忠 男 (71)	瑞 単	福 島 県	元 昭和村消防団 団長	あ ぐ だ の 星 貞 男 (68)
瑞 双	福 島 県	元 郡山市消防団 団長	あ ぐ だ の 濱 尾 文 重 (70)	瑞 単	福 島 県	元 檜枝岐村消防団 分団長	あ ぐ だ の 星 信 雄 (76)
瑞 双	福 島 県	元 鮫川村消防団 団長	あ ぐ だ の 松 本 恵 治 (70)	瑞 単	福 島 県	元 田村市消防団 副団長	あ ぐ だ の 松 本 正 作 (65)
瑞 単	福 島 県	元 白河市連合消防団 白河消防団 分団長	あ ぐ だ の 赤 城 寛 治 (68)	瑞 単	福 島 県	元 南会津町消防団 副団長	あ ぐ だ の 森 郁 男 (65)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	あ ぐ だ の 阿 部 隆 明 (69)	瑞 小	茨 城 県	元 茨城西南地方広域 市町村圏事務組合 消防正監	あ ぐ だ の 大 井 昭 夫 (70)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 小	茨 城 県	元 筑西広域市町村圏 事務組合 消防正監	藤 田 隆 (71)	瑞 小	栃 木 県	元 宇都宮市 消防正監	藤 原 由 房 (70)
瑞 小	茨 城 県	元 水戸市 消防正監	谷 田 部 昭 (70)	瑞 単	栃 木 県	元 足利市消防団 副団長	大 槻 昭 雄 (68)
瑞 単	茨 城 県	元 常陸太田市消防団 副団長	青 木 淳 (75)	瑞 単	栃 木 県	元 足尾町消防団 分団長	木 村 廣 (77)
瑞 単	茨 城 県	元 神栖市消防団 副団長	石 田 輝 夫 (65)	瑞 単	栃 木 県	元 大田原市消防団 団長	車 田 正 信 (72)
瑞 単	茨 城 県	元 筑西市消防団 副団長	押 坂 登 (75)	瑞 単	栃 木 県	元 都賀町消防団 団長	田 嶋 健 一 (67)
瑞 単	茨 城 県	元 勝田市消防団 副団長	黒 澤 泰 次 (79)	瑞 単	栃 木 県	元 矢板市消防団 分団長	長 野 孝 司 (72)
瑞 単	茨 城 県	元 取手市消防団 副団長	小 池 光 一 (65)	瑞 単	栃 木 県	元 宇都宮市消防団 分団長	福 地 昭 夫 (77)
瑞 単	茨 城 県	元 十王町消防団 副団長	権 名 哲 也 (80)	瑞 単	栃 木 県	元 粟野町消防団 団長	丸 山 信 昭 (67)
瑞 単	茨 城 県	元 城里町消防団 副団長	仲 田 信 夫 (75)	瑞 双	群 馬 県	元 富岡市消防団 団長	畑 村 弘 (70)
瑞 単	茨 城 県	元 常陸太田市消防団 副団長	根 本 一 男 (70)	瑞 単	群 馬 県	元 安中市消防団 分団長	大 塚 貞 雄 (77)
瑞 単	茨 城 県	元 北茨城市消防団 副団長	船 木 俊 一 (71)	瑞 単	群 馬 県	元 高崎市消防団 団長	櫻 井 卓 雄 (64)
瑞 単	茨 城 県	元 利根町消防団 団長	武 藤 則 夫 (66)	瑞 単	群 馬 県	元 嬭恋消防団 副団長	滝 沢 良 一 (80)
瑞 双	埼 玉 県	元 川口市消防団 団長	川 俣 岩 男 (70)	瑞 単	埼 玉 県	元 宮代町消防団 分団長	福 島 武 雄 (79)
瑞 双	埼 玉 県	元 本庄市消防団 団長	鯨 井 武 明 (70)	瑞 単	埼 玉 県	元 横瀬町消防団 副団長	村 越 盛 行 (65)
瑞 双	埼 玉 県	元 春日部市消防団 団長	笹 川 圭 司 (71)	瑞 小	千 葉 県	元 長生郡市広域市町 村圏組合 消防正監	秋 葉 祐 侑 (74)
瑞 双	埼 玉 県	元 さいたま市 消防正監	中 村 芳 明 (70)	瑞 小	千 葉 県	元 千葉市 消防正監	小 澤 敏 行 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 行田市消防団 副団長	飯 田 隆 利 (72)	瑞 小	千 葉 県	元 佐倉市八街市沓 井町消防組合 消防正監	齊 藤 克 男 (75)
瑞 単	埼 玉 県	元 熊谷市消防団 分団長	風 間 一 夫 (70)	瑞 双	千 葉 県	元 市川市消防団 団長	川 島 忍 (79)
瑞 単	埼 玉 県	元 戸田市消防団 分団長	栗 原 清 (70)	瑞 双	千 葉 県	元 安房郡市広域市町 村圏事務組合 消防正監	庄 司 親 雄 (75)
瑞 単	埼 玉 県	元 川口市消防団 分団長	須 賀 直 幸 (72)	瑞 単	千 葉 県	元 いすみ市消防団 副団長	石 井 晴 幸 (65)
瑞 単	埼 玉 県	元 越谷市消防団 団長	高 橋 明 (70)	瑞 単	千 葉 県	元 栄町消防団 団長	大久保 靖 夫 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 大滝村消防団 副分団長	千 島 幸 太郎 (77)	瑞 単	千 葉 県	元 市原市消防団 副団長	齋 藤 優 (66)
瑞 単	埼 玉 県	元 蕨市消防団 団長	永 井 忠 士 (70)	瑞 単	千 葉 県	元 長生郡市広域市町 村圏組合消防団 分団長	斉 藤 森 慶 (80)
瑞 単	埼 玉 県	元 加須市消防団 副団長	野 中 信 男 (73)	瑞 単	千 葉 県	元 干潟町消防団 団長	高 木 武 雄 (69)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	千 葉 県	元 君津市消防団 副団長	根 岸 重 夫 (65)	瑞 単	東 京 都	元 光が丘消防団 副団長	小 澤 勝 一 (73)
瑞 単	千 葉 県	元 印旛村消防団 団長	鳩 谷 榮 衛 (71)	瑞 単	東 京 都	元 荏原消防団 分団長	金 子 貞 夫 (75)
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	稲 葉 昇 (70)	瑞 単	東 京 都	元 高輪消防団 副団長	神 田 秀 雄 (71)
瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	塩野 自 勝 (70)	瑞 単	東 京 都	元 目黒消防団 副団長	城 所 豊 (72)
瑞 双	東 京 都	元 四谷消防団 団長	磯 合 彰 夫 (70)	瑞 単	東 京 都	元 京橋消防団 分団長	熊 谷 和四郎 (71)
瑞 双	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	岡 崎 翼 (70)	瑞 単	東 京 都	元 千住消防団 副団長	榎 林 一 雄 (71)
瑞 双	東 京 都	元 日本橋消防団 団長	鹿 島 靖 幸 (79)	瑞 単	東 京 都	元 石神井消防団 副団長	高 橋 一 郎 (69)
瑞 双	東 京 都	元 成城消防団 団長	北 村 洋 明 (72)	瑞 単	東 京 都	元 浅草消防団 団長	滝 瀬 晶 宏 (76)
瑞 双	東 京 都	元 田園調布消防団 団長	國 廣 正 俊 (78)	瑞 単	東 京 都	元 矢口消防団 分団長	田 野 井 雅 (67)
瑞 単	東 京 都	元 上野消防団 副団長	飯 島 嘉 雄 (76)	瑞 単	東 京 都	元 小石川消防団 副団長	富 田 哲 實 (74)
瑞 単	東 京 都	元 板橋消防団 団長	大 野 一 征 (70)	瑞 単	東 京 都	元 西東京市消防団 団長	中 野 恭 一郎 (70)
瑞 単	東 京 都	元 金町消防団 分団長	大 山 安 久 (75)	瑞 単	東 京 都	元 本所消防団 団長	平 井 光 吉 (71)
瑞 単	東 京 都	元 城東消防団 分団長	藤 井 敬 男 (68)	瑞 単	神 奈 川 県	元 南足柄市消防団 団長	加 藤 欣 三 (70)
瑞 単	東 京 都	元 荻窪消防団 分団長	森 田 幸 男 (71)	瑞 単	神 奈 川 県	元 伊勢原市消防団 分団長	菊 籠 敏 夫 (71)
瑞 単	東 京 都	元 大井消防団 副団長	森 義 弘 (75)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市金沢消防団 副団長	小 早 川 醇 (79)
瑞 単	東 京 都	元 世田谷消防団 副団長	山 野 井 榮 二 (75)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市戸塚消防団 副団長	三 枝 木 博 (76)
瑞 小	神 奈 川 県	元 横浜市 消防正監	小 山 和 夫 (73)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横須賀市消防団 副団長	田 代 襄 介 (75)
瑞 小	神 奈 川 県	元 川崎市 消防正監	鈴 木 彰 (72)	瑞 単	神 奈 川 県	元 平塚市消防団 分団長	原 盛 義 (72)
瑞 小	神 奈 川 県	元 横浜市 消防正監	平 田 欣 也 (74)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市瀬谷消防団 分団長	廣 瀬 正 司 (75)
瑞 小	神 奈 川 県	元 藤沢市 消防正監	前 崎 文 男 (71)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市保土ヶ谷消防団 分団長	眞 板 美 喜 雄 (79)
瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市川崎消防団 分団長	飯 島 喜 一郎 (80)	瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市高津消防団 副団長	山 上 和 男 (70)
瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市中原消防団 分団長	石 川 三 吉 (77)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市寿消防団 分団長	山 下 光 治 (81)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横浜市加賀町消防団 副団長	植 草 亘 (76)	瑞 双	新 潟 県	元 新潟市 消防正監	大 橋 大 助 (73)
瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市臨港消防団 分団長	片 倉 健 一 (75)	瑞 単	新 潟 県	元 加治川村消防団 団長	阿 部 定 雄 (65)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	新 潟 県	元 長岡市消防団 分団長	飯 田 耕 一 (75)	瑞 単	新 潟 県	元 長岡市与板消防団 団長	本 村 富 一 (65)
瑞 単	新 潟 県	元 妙高市消防団 副団長	飯 吉 優 (65)	瑞 単	新 潟 県	元 五泉市消防団 分団長	森 正 衛 (70)
瑞 単	新 潟 県	元 新潟市西消防団 分団長	板 井 榮 六 (74)	瑞 双	富 山 県	元 高岡市消防団 団長	横 越 政 衛 (70)
瑞 単	新 潟 県	元 分水町消防団 団長	伊 藤 均 (68)	瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 副団長	石 黒 良 明 (70)
瑞 単	新 潟 県	元 越路町消防団 分団長	大 矢 毅 (79)	瑞 単	富 山 県	元 婦中町消防団 分団長	奥 村 眞 壽 夫 (77)
瑞 単	新 潟 県	元 村上市消防団 分団長	加 藤 悦 郎 (69)	瑞 単	富 山 県	元 高岡市高岡消防団 分団長	川 瀧 利 明 (76)
瑞 単	新 潟 県	元 両津市消防団 分団長	北 村 美 廣 (75)	瑞 単	富 山 県	元 大門町消防団 副団長	木 田 道 良 (76)
瑞 単	新 潟 県	元 南魚沼市消防団 副団長	清 塚 清 (65)	瑞 単	富 山 県	元 高岡市南部消防団 分団長	小 笹 雅 男 (76)
瑞 単	新 潟 県	元 糸魚川市能生消防団 副団長	小 杉 功 (67)	瑞 単	富 山 県	元 射水市消防団 副団長	島 田 秀 雄 (67)
瑞 単	新 潟 県	元 下田村消防団 副団長	橋 耕 司 (72)	瑞 単	富 山 県	元 南砺市消防団 分団長	中 山 亮 一 (79)
瑞 単	新 潟 県	元 巻町消防団 団長	長 谷 川 守 (65)	瑞 単	富 山 県	元 庄川町消防団 副団長	南 部 進 (72)
瑞 単	新 潟 県	元 岩室村消防団 副団長	宝 輪 睦 雄 (73)	瑞 単	富 山 県	元 富山市消防団 副団長	前 田 敏 男 (76)
瑞 単	富 山 県	元 小杉町消防団 副団長	松 木 忠 吉 (75)	瑞 単	福 井 県	元 鯖江・丹生消防組 合織田消防団 団長	佐 々 木 巧 (74)
瑞 単	富 山 県	元 水見市消防団 分団長	森 越 幸 一 (79)	瑞 単	福 井 県	元 福井地区消防組合 福井地区消防団 副団長	橋 本 潔 (73)
瑞 単	富 山 県	元 魚津市消防団 分団長	若 林 甚 之 丞 (76)	瑞 単	福 井 県	元 大野市消防団 団長	森 廣 廣 治 (75)
瑞 単	石 川 県	元 輪島市消防団 副団長	川 端 勇 一 (72)	瑞 単	山 梨 県	元 道志村消防団 団長	佐 藤 友 文 (64)
瑞 単	石 川 県	元 松任市消防団 団長	立 野 和 夫 (70)	瑞 単	山 梨 県	元 三富村消防団 団長	角 田 旭 (65)
瑞 単	石 川 県	元 金沢市第二消防団 分団長	谷 村 憲 治 (70)	瑞 単	山 梨 県	元 牧丘町消防団 団長	渡 邊 祐 夫 (68)
瑞 単	石 川 県	元 小松市消防団 副団長	原 田 繁 (71)	瑞 小	長 野 県	元 松本広域連合 消防正監	藤 岡 泰 (70)
瑞 単	石 川 県	元 柳田村消防団 副団長	平 紀 明 (72)	瑞 単	長 野 県	元 松本市消防団 副団長	奥 原 集 (61)
瑞 単	石 川 県	元 七尾鹿島広域圏事 務組合第2消防団 副団長	堀 川 満 (71)	瑞 単	長 野 県	元 大町市消防団 団長	高 木 教 男 (63)
瑞 双	福 井 県	元 嶺北消防組合あわ ら消防団 団長	畑 壽 典 (70)	瑞 単	長 野 県	元 信州新町消防団 団長	西 澤 文 夫 (61)
瑞 単	福 井 県	元 南越消防組合南条 消防団 副団長	今 村 幹 一 (75)	瑞 単	長 野 県	元 戸隠村消防団 団長	東 澤 洋 一 (63)
瑞 単	福 井 県	元 敦賀美方消防組合 敦賀消防団 分団長	岸 本 弘 士 (71)	瑞 単	長 野 県	元 臼田町消防団 団長	渡 辺 一 夫 (60)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	岐 阜 県	元 瑞穂市消防団 団長	加 藤 弘 (66)	瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 副団長	平 野 雅 元 (71)
瑞 双	岐 阜 県	元 各務原市消防団 団長	栗 山 三 郎 (77)	瑞 単	静 岡 県	元 大井川町消防団 副団長	吉 田 孝 志 (68)
瑞 双	岐 阜 県	元 川島町消防団 団長	田 中 聰 吏 (72)	瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 分団長	渡 邊 俊 一 (66)
瑞 双	岐 阜 県	元 高山市消防団 副団長	野 中 正 男 (69)	瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 副団長	渡 邊 誠 一 (68)
瑞 双	岐 阜 県	元 明宝村消防団 団長	本 川 好 文 (79)	瑞 小	愛 知 県	元 名古屋市 消防正監	北 西 晃 久 (76)
瑞 単	岐 阜 県	元 関市消防団 副団長	井 上 照 勝 (68)	瑞 双	愛 知 県	元 北名古屋市消防団 団長	森 正 男 (74)
瑞 単	岐 阜 県	元 下呂市小坂消防団 副団長	加 藤 孝 美 (65)	瑞 双	愛 知 県	元 美浜町消防団 団長	渡 邊 光 雄 (78)
瑞 単	岐 阜 県	元 岐阜市北消防団 団長	森 重 臣 (69)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市白金消防団 団長	加 島 惇 二 (80)
瑞 単	岐 阜 県	元 郡上市消防団 副団長	横 山 登 喜 弘 (64)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市千成消防団 副団長	加 藤 竹 男 (86)
瑞 双	静 岡 県	元 三島市消防団 団長	廣 瀬 光 彦 (70)	瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市西染地消防団 副団長	河 田 敏 男 (78)
瑞 単	静 岡 県	元 富士川町消防団 副団長	大 久 保 勝 令 (73)	瑞 単	愛 知 県	元 一宮市消防団 分団長	小 島 正 勝 (70)
瑞 単	静 岡 県	元 富士宮市消防団 団長	佐 野 禎 彦 (66)	瑞 単	愛 知 県	元 一宮市消防団 副団長	坂 井 昭 弘 (68)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市豊岡消防団 副団長	杉 山 金 明 (79)	瑞 単	滋 賀 県	元 大津市消防団 副団長	萩 原 勝 幸 (69)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市千早消防団 副団長	高 木 常 治 (80)	瑞 単	滋 賀 県	元 五個荘町消防団 副団長	矢 守 善 雄 (64)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市昭和橋消防団 副団長	山 田 鐵 雄 (73)	瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防司監	山 口 豊 (70)
瑞 双	三 重 県	元 志摩市消防団 副団長	竹 内 義 延 (71)	瑞 双	京 都 府	元 京都市右京消防団 副団長	井 上 義 平 (69)
瑞 単	三 重 県	元 御浜町消防団 副団長	岡 鼻 宏 育 (70)	瑞 双	京 都 府	元 京都市西京消防団 副団長	土 肥 正 義 (74)
瑞 単	三 重 県	元 亀山市消防団 副分団長	小 林 満 (81)	瑞 双	京 都 府	元 京都市中京消防団 副団長	中 谷 治 一 (78)
瑞 単	三 重 県	元 紀宝町消防団 副分団長	畑 中 耕 一 郎 (77)	瑞 双	京 都 府	元 京都市北消防団 副団長	萩 原 正 己 (70)
瑞 単	三 重 県	元 桑名市消防団 副団長	日 沖 茂 行 (64)	瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 副分団長	井 口 豊 (81)
瑞 小	滋 賀 県	元 大津市 消防正監	中 面 昭 (70)	瑞 単	京 都 府	元 京都市東山消防団 副団長	重 松 敏 夫 (71)
瑞 小	滋 賀 県	元 東近江行政組合 消防正監	中 村 信 雄 (70)	瑞 単	京 都 府	元 宇治市消防団 副団長	辻 佳 克 (64)
瑞 単	滋 賀 県	元 米原市消防団 副団長	鹿 取 豊 (65)	瑞 単	京 都 府	元 京都市右京消防団 副分団長	永 田 勝 治 (74)
瑞 単	滋 賀 県	元 高島市消防団 副団長	川 元 真 夫 (64)	瑞 単	京 都 府	元 京都市山科消防団 副分団長	森 本 彦 次 (75)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 小	大 阪 府	元 八尾市 消防正監	木 村 政 信 (72)	瑞 双	兵 庫 県	元 洲本市消防団 団長	竹 口 弘 之 (71)
瑞 小	大 阪 府	元 大阪市 消防司監	本 城 光 一 (70)	瑞 双	兵 庫 県	元 神戸市中央消防団 団長	深 井 勲 (71)
瑞 双	大 阪 府	元 泉佐野市消防団 団長	神 屋 弘 弘 (74)	瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	赤 川 昇 (76)
瑞 双	大 阪 府	元 東大阪市 消防正監	松 井 良 弘 (71)	瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市姫路西消防団 団長	梅 元 義 昭 (71)
瑞 双	大 阪 府	元 高槻市消防団 団長	山 口 幸 和 (72)	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	浦 入 稔 (78)
瑞 単	大 阪 府	元 貝塚市消防団 団長	宇 野 義 雄 (69)	瑞 単	兵 庫 県	元 相生市消防団 団長	河 合 勝 (70)
瑞 単	大 阪 府	元 東大阪市消防団 分団長	北 埜 克 巳 (74)	瑞 単	兵 庫 県	元 加古川市消防団 分団長	草 水 敏 (67)
瑞 単	大 阪 府	元 豊中市消防団 副団長	永 井 敏 輝 (71)	瑞 単	兵 庫 県	元 西宮市消防団 分団長	小 西 和 芳 (82)
瑞 単	大 阪 府	元 門真市消防団 副団長	橋 田 甲 一 郎 (68)	瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	斉 藤 進 (74)
瑞 双	兵 庫 県	元 明石市消防団 団長	秋 野 忠 志 (71)	瑞 単	兵 庫 県	元 洲本市消防団 副団長	津 司 治 英 (64)
瑞 双	兵 庫 県	元 加古川市消防団 団長	後 藤 政 義 (70)	瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市西消防団 副団長	中 垣 正 弘 (74)
瑞 双	兵 庫 県	元 小野市消防団 団長	小 林 正 幸 (72)	瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市網干消防団 分団長	中 村 國 雄 (74)
瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市垂水消防団 団長	信 川 克 己 (71)	瑞 単	和 歌 山 県	元 那智勝浦町消防団 分団長	太 田 喜 藏 (79)
瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市豊岡消防団 副団長	渡 邊 安 志 (72)	瑞 単	和 歌 山 県	元 新宮市消防団 分団長	大 原 壽 雄 (73)
瑞 双	奈 良 県	元 黒滝村消防団 団長	中 森 清 嗣 (70)	瑞 単	和 歌 山 県	元 有田川町消防団 副団長	木 下 富 夫 (76)
瑞 双	奈 良 県	元 野迫川村消防団 副団長	雪 谷 明 良 (79)	瑞 単	和 歌 山 県	元 白浜町消防団 分団長	小 山 洋 治 (71)
瑞 単	奈 良 県	元 御所市消防団 副団長	幸 田 忠 貞 (71)	瑞 単	和 歌 山 県	元 田辺市消防団 副団長	中 橋 弘 次 (70)
瑞 単	奈 良 県	元 平群町消防団 副団長	塚 口 勲 (73)	瑞 単	和 歌 山 県	元 和歌山市消防団 分団長	西 岡 良 樹 (74)
瑞 単	奈 良 県	元 大和郡山市消防団 分団長	内 藤 忠 男 (70)	瑞 単	和 歌 山 県	元 かつらぎ町消防団 団長	長谷場 英 夫 (69)
瑞 単	奈 良 県	元 五條市消防団 分団長	東久保 安 市 (75)	瑞 単	和 歌 山 県	元 有田市消防団 分団長	濱 端 則 男 (73)
瑞 単	奈 良 県	元 上北山村消防団 分団長	福 田 利 也 (79)	瑞 単	和 歌 山 県	元 御坊市消防団 分団長	増 田 順 一 (83)
瑞 単	奈 良 県	元 香芝町消防団 分団長	松 井 修 (81)	瑞 小	鳥 取 県	元 西部広域行政管理 組合 消防正監	清 水 隆 (70)
瑞 単	奈 良 県	元 菟田野町消防団 副団長	米 澤 響 之 (75)	瑞 双	鳥 取 県	元 東部広域行政管理 組合 消防正監	小 林 克 (70)
瑞 双	和 歌 山 県	元 すさみ町消防団 団長	原 口 正 央 (76)	瑞 双	鳥 取 県	元 東部広域行政管理 組合 消防正監	近 藤 征 之 助 (70)

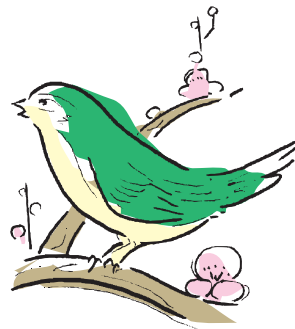
賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	鳥 取 県	元 船岡町消防団 団長	いし 岩 城 正 一 (75)	瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	いち 市 村 茂 清 (72)
瑞 単	鳥 取 県	元 三朝町消防団 副団長	おお 太 田 克 美 (65)	瑞 単	岡 山 県	元 大原町消防団 団長	いの 井 上 雅 勝 (65)
瑞 単	鳥 取 県	元 米子市消防団 分団長	た 田 平 政 己 (75)	瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 分団長	おお 大 畑 博 和 (66)
瑞 単	鳥 取 県	元 倉吉市消防団 分団長	まき 牧 田 勉 (75)	瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 分団長	おの 岡 本 才 市 (68)
瑞 単	島 根 県	元 出雲市消防団 副団長	いけ 池 田 豊 春 (64)	瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 分団長	おの 奥 野 修 久 (65)
瑞 単	島 根 県	元 安来市消防団 副団長	おの 岡 田 正 己 (69)	瑞 単	岡 山 県	元 美甘村消防団 副団長	すぎ 杉 本 安 規 (67)
瑞 単	島 根 県	元 斐川町消防団 副団長	ひら 多々納 恒 雄 (81)	瑞 単	岡 山 県	元 倉敷市消防団 副団長	たか 高 原 修 衛 (66)
瑞 単	島 根 県	元 松江市消防団 副団長	つ 津 森 征 洋 (68)	瑞 単	岡 山 県	元 備中町消防団 団長	たか 谷 宣 夫 (67)
瑞 単	島 根 県	元 益田市消防団 分団長	ひら 中 村 薫 (85)	瑞 単	岡 山 県	元 真庭市川上消防団 副団長	よく 徳 山 英 昭 (66)
瑞 単	島 根 県	元 弥栄村消防団 副団長	ひろ 廣 瀬 康 友 (69)	瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	ほ 保 住 弘 昭 (66)
瑞 単	島 根 県	元 江津市消防団 分団長	やま 山 崎 房 美 (81)	瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	やま 山 形 明 弘 (73)
瑞 単	島 根 県	元 浜田市消防団 分団長	やま 山 下 政 則 (67)	瑞 単	岡 山 県	元 新見市消防団 副団長	やま 山 上 勝 也 (66)
瑞 単	岡 山 県	元 津山市消防団 分団長	ひら 湯 浅 秀 明 (65)	瑞 単	広 島 県	元 廿日市市消防団 分団長	く 具 路 貢 (72)
瑞 小	広 島 県	元 備北地区消防広域 行政組合 消防正監	ひら 箕 田 英 紀 (70)	瑞 単	広 島 県	元 大柿町消防団 分団長	こ 小 松 義 男 (76)
瑞 双	広 島 県	元 広島市佐伯消防団 団長	ひら 長谷川 薫 (70)	瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 分団長	ひろ 原 田 重 徳 (81)
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐北消防 団 分団長	いし 生 田 忠 男 (74)	瑞 単	広 島 県	元 美土里町消防団 分団長	ひろ 平 川 幸 雄 (71)
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐北消防 団 団長	う 宇 野 昭 義 (70)	瑞 単	広 島 県	元 広島市安芸消防団 分団長	ひろ 平 本 信 由 (86)
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 分団長	ひろ 榎 本 倍 己 (87)	瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 分団長	ひろ 廣 島 照 美 (81)
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 分団長	おお 大 田 精 一 (71)	瑞 単	広 島 県	元 大竹市消防団 分団長	もり 森 川 孝 治 (73)
瑞 単	広 島 県	元 黒瀬町消防団 分団長	おの 沖 廣 憲 一 (72)	瑞 単	山 口 県	元 阿知須町消防団 副団長	いし 石 田 義 香 (75)
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 分団長	おの 奥 照 夫 (76)	瑞 単	山 口 県	元 阿東町消防団 団長	うえ 上 野 喜 生 (70)
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副団長	かみ 勝 田 成 視 (70)	瑞 単	山 口 県	元 美祿市消防団 副団長	よ 恵 本 久 登 (70)
瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 分団長	かみ 上 重 勝 (83)	瑞 単	山 口 県	元 旭村消防団 分団長	おの 岡 藤 肇 (76)
瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 分団長	かわ 河 村 悟 (73)	瑞 単	山 口 県	元 阿武町消防団 分団長	おの 岡 村 伸 (85)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	山 口 県	元 防府市消防団 分団長	梶 田 博 美 (76)	瑞 単	山 口 県	元 むつみ村消防団 分団長	吉 村 満 夫 (78)
瑞 単	山 口 県	元 山陽小野田市消防団 分団長	加 納 幸 光 (72)	瑞 双	徳 島 県	元 海陽町消防団 団長	中 島 成 好 (74)
瑞 単	山 口 県	元 宇都市消防団 分団長	久 保 田 治 夫 (73)	瑞 双	徳 島 県	元 牟岐町消防団 団長	前 川 昌 宏 (82)
瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 副団長	志 村 紀 年 (72)	瑞 単	徳 島 県	元 徳島市消防団 副団長	井 上 正 行 (64)
瑞 単	山 口 県	元 周防大島町消防団 副団長	田 村 時 彦 (72)	瑞 単	徳 島 県	元 三好町消防団 団長	白 杵 岩 雄 (78)
瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 分団長	野 村 和 男 (82)	瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 副団長	玉 木 美 之 (65)
瑞 単	山 口 県	元 福栄村消防団 分団長	服 部 健 二 (79)	瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 分団長	東 條 孝 男 (64)
瑞 単	山 口 県	元 下松市消防団 団長	藤 井 基 博 (73)	瑞 単	徳 島 県	元 美波町消防団 副団長	中 由 一 (73)
瑞 単	山 口 県	元 山陽小野田市消防団 分団長	松 本 克 満 (77)	瑞 単	徳 島 県	元 徳島市消防団 副団長	新 居 正 昭 (65)
瑞 単	山 口 県	元 美東町消防団 分団長	山 下 時 夫 (77)	瑞 単	徳 島 県	元 吉野川市消防団 副団長	森 永 節 雄 (75)
瑞 単	山 口 県	元 徳山市消防団 分団長	山 本 迂 君 (80)	瑞 単	香 川 県	元 香南町消防団 分団長	秋 山 英 雄 (80)
瑞 単	山 口 県	元 周防大島町消防団 副団長	吉 田 弘 志 (76)	瑞 単	香 川 県	元 綾南町消防団 分団長	池 内 士 (80)
瑞 単	香 川 県	元 観音寺市消防団 副団長	大 西 俊 一 (66)	瑞 単	愛 媛 県	元 丹原町消防団 団長	今 井 貞 幸 (64)
瑞 単	香 川 県	元 琴平町消防団 団長	大 森 茂 (70)	瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 団長	佐々木 邦 男 (83)
瑞 単	香 川 県	元 三木町消防団 分団長	佐々木 光 義 (77)	瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 副団長	鈴 鹿 秀 夫 (64)
瑞 単	香 川 県	元 山本町消防団 副団長	近 石 正 則 (77)	瑞 単	愛 媛 県	元 広田村消防団 副団長	玉 井 幸 男 (84)
瑞 単	香 川 県	元 牟礼町消防団 分団長	那 須 信 夫 (80)	瑞 単	愛 媛 県	元 長浜町消防団 団長	西 山 和 夫 (64)
瑞 単	香 川 県	元 綾上町消防団 分団長	西 村 武 男 (79)	瑞 単	愛 媛 県	元 中山町消防団 団長	平 磯 章 (64)
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 分団長	峯 一 彦 (76)	瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 副団長	松 村 重 (67)
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	宮 井 重 信 (70)	瑞 単	高 知 県	元 宿毛市消防団 団長	江 口 文 夫 (68)
瑞 単	香 川 県	元 豊浜町消防団 副団長	山 内 喜 雄 (76)	瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合須崎 消防団 分団長	大 崎 正 寛 (72)
瑞 単	香 川 県	元 まんのう町消防団 団長	山 下 強 (69)	瑞 単	高 知 県	元 南国市消防団 分団長	篠 田 泰 詔 (77)
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 副団長	一ノ宮 巧 (67)	瑞 単	高 知 県	元 土佐市消防団 副団長	近 澤 和 肇 (65)
瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	井 上 直 行 (85)	瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合中土 佐消防団 分団長	中 平 達 雄 (74)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合四万十消防団 副団長	なか ちや たくし 隆 (73)	瑞 単	福 岡 県	元 大牟田市消防団 副団長	た 田 なか よし 義 人 (66)
瑞 単	高 知 県	元 香南消防組合赤岡消防団 団長	にし むら たくし 敏 彦 (72)	瑞 単	福 岡 県	元 添田町消防団 副団長	つね だ 田 たけ 忠 助 (72)
瑞 単	高 知 県	元 高幡消防組合梶原消防団 副分団長	ひさ かつ 岡 たけ 志 (69)	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市博多消防団 分団長	なが 水 と 江 幸 久 (75)
瑞 単	高 知 県	元 大月町消防団 副分団長	みや げや し 三 温 (71)	瑞 単	福 岡 県	元 筑紫野市消防団 団長	はら 綾 尾 勝 美 (67)
瑞 単	高 知 県	元 室戸市消防団 副団長	やま 山 さき 修 (67)	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉南消防団 副団長	は 羽 山 つよし 毅 (77)
瑞 双	福 岡 県	元 北九州市戸畑消防団 団長	お 小 野 田 とし 光 (69)	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市西消防団 分団長	ま 牧 山 敏 雄 (68)
瑞 単	福 岡 県	元 久留米市消防団 分団長	うし 牛 島 たけ 人 (73)	瑞 単	福 岡 県	元 水巻町消防団 団長	まつ 松 本 大次郎 (68)
瑞 単	福 岡 県	元 飯塚市消防団 分団長	か し 梶 原 ひろ 英 治 (76)	瑞 単	福 岡 県	元 直方市消防団 副団長	やま 山 口 耀 平 (74)
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市東消防団 副団長	かわ 川 なべ まさ 政 雄 (78)	瑞 双	佐 賀 県	元 佐賀市久保田町消防団 団長	なか 中 野 あずさ 梓 (68)
瑞 単	福 岡 県	元 柳川市消防団 副団長	きた 北 原 さとる 覚 (64)	瑞 単	佐 賀 県	元 小城市消防団 副団長	かわ 川 さき 和 矢 (70)
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市中央消防団 分団長	き 木 の 野 ひげ 啓 造 (74)	瑞 単	佐 賀 県	元 肥前町消防団 団長	さか 坂 口 良 雄 (82)
瑞 単	福 岡 県	元 上毛町消防団 副団長	きよ 清 原 たて 樹 (67)	瑞 単	佐 賀 県	元 佐賀市消防団 分団長	はら 原 だ 田 勝 昌 (70)
瑞 単	佐 賀 県	元 千代田町消防団 団長	ふる 古 川 みつ 幸 幸 (64)	瑞 単	長 崎 県	元 千々石町消防団 分団長	ば 馬 場 本 大 達 (86)
瑞 双	長 崎 県	元 大瀬戸町消防団 団長	はやし 林 まさ 敏 正 (70)	瑞 単	長 崎 県	元 生月町消防団 副団長	ひやく 百 村 まさ 守 守 (76)
瑞 単	長 崎 県	元 鷹島町消防団 分団長	かね い 金 井 田 すみ 澄 男 (79)	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 副団長	やま 山 口 俊 治 (70)
瑞 単	長 崎 県	元 時津町消防団 分団長	き 木 ちか 下 の 昇 昇 (79)	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 分団長	よし 吉 村 こ 浩 一 (74)
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	くす 楠 の 野 いさ 功 (77)	旭 小	熊 本 県	元 人吉市消防団 団長	かわ 川 の 野 惟 精 (76)
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	くす 楠 ちか 本 とし 壽 一 (79)	瑞 単	熊 本 県	元 鏡町消防団 団長	岡 岡 本 太 太 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 新上五島町消防団 副団長	こ 小 倉 しげ 喜 喜 (73)	瑞 単	熊 本 県	元 小国町消防団 副団長	かわ 河 津 ひさ 久 利 (78)
瑞 単	長 崎 県	元 香焼町消防団 分団長	こ 小 宮 けんいちろう (81)	瑞 単	熊 本 県	元 一の宮町消防団 団長	たか 高 橋 しん 進 一 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 諫早市消防団 副団長	さか 坂 田 敏 雄 (70)	瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 副分団長	なから 俵 ひい 奎 吉 (83)
瑞 単	長 崎 県	元 上対馬町消防団 副団長	たま 玉 田 敏 馨 (76)	瑞 単	熊 本 県	元 菊鹿町消防団 団長	なか 中 原 きみ 公 敏 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 五島市消防団 副分団長	とどろき 轟 すま 磨 雄 (77)	瑞 単	熊 本 県	元 長洲町消防団 団長	ふじ 藤 木 てる 照 喜 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 加津佐町消防団 副団長	なか 中 お 尾 國 美 (78)	瑞 単	熊 本 県	元 牛深市消防団 団長	やま 山 口 しげ 重 信 (64)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	熊 本 県	元 熊本市消防団 分団長	吉 村 功 (73)	瑞 双	宮 崎 県	元 高原町消防団 団長	邊木園 昭 (80)
瑞 単	大 分 県	元 日出町消防団 団長	安 部 横太郎 (69)	瑞 単	宮 崎 県	元 宮崎市消防団 分団長	安 藤 武 則 (65)
瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 分団長	荒 金 忠 彦 (78)	瑞 単	宮 崎 県	元 宮崎市消防団 副団長	串 間 忠 雄 (63)
瑞 単	大 分 県	元 耶馬溪町消防団 団長	甲 斐 信 仁 (70)	瑞 単	宮 崎 県	元 延岡市消防団 副団長	山 本 章 一 (64)
瑞 単	大 分 県	元 院内町消防団 副団長	河 野 房 男 (76)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 東町消防団 団長	岩 下 陽 則 (80)
瑞 単	大 分 県	元 臼杵市消防団 副分団長	木 村 正 祐 (75)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 高尾野町消防団 団長	尾野島 平 (79)
瑞 単	大 分 県	元 九重町消防団 団長	高 橋 喜八郎 (65)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 龍郷町消防団 団長	作 田 和 國 (81)
瑞 単	大 分 県	元 直川村消防団 副団長	泥 谷 元 善 (73)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 霧島市消防団 副団長	園 田 義 昭 (69)
瑞 単	大 分 県	元 杵築市杵築消防団 副団長	藤 原 力 男 (66)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 南九州市消防団 団長	田 畑 利 輝 (69)
瑞 単	大 分 県	元 日田市大山消防団 団長	松 原 六 朗 (67)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 大和村消防団 団長	直 島 榮 男 (76)
瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 副団長	横 山 英 行 (69)	瑞 双	鹿 児 島 県	元 鹿屋市串良消防団 団長	山 下 健 (67)
瑞 双	宮 崎 県	元 須木村消防団 団長	西 道 紀 一 (71)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 加治木町消防団 団長	市末原 松 義 (75)

瑞 単	鹿 児 島 県	元 指宿市消防団 副団長	下吹越 悦 男 (75)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 名瀬市消防団 副団長	田 中 茂 樹 (77)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 錦江町消防団 副団長	水 流 篤 雄 (72)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 部長	鶴 留 光 雄 (79)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 日置市消防団 副分団長	徳 永 匡 是 (76)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 志布志市消防団 団長	濱 野 博 (74)
瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 副団長	山 下 安 男 (79)
瑞 双	沖 縄 県	元 石垣市消防団 団長	三 木 巖 (70)
瑞 単	沖 縄 県	元 うるま市消防団 分団長	伊 波 清 (63)
旭 双	群 馬 県	現 (一社)群馬県消防 設備協会 理事長	星 野 義 夫 (73)
旭 双	愛 媛 県	元 愛媛県婦人防火ク ラブ連絡協議会 会長	毛 利 美惠子 (70)



平成24年版消防白書の概要

総務省 消防庁 防災課

平成24年版消防白書が、平成24年12月7日の閣議を経て公表されました。ここでは、その概要について紹介します。また、白書全文については、消防庁ホームページ (<http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h24/index.html>) でもご覧になれます。

主な概要は以下のとおりです。

第1部 東日本大震災を踏まえた課題への対応

東日本大震災の教訓を踏まえ、地震・津波対策の推進と地域防災力の強化、消防職員の初動活動及び消防職団員の安全対策、緊急消防援助隊の効果的な運用・施設整備、民間事業者における地震・津波対策など、消防防災体制の強化に取り組んでいる。

地震・津波対策の推進と地域防災力の強化(第1章)

●防災基本計画の修正と災害対策基本法の改正等

発生頻度の高い津波のみならず、発生頻度は極めて低いものの、甚大な被害をもたらす最大クラスの津波も想定し、住民の避難を軸に、総合的な地震・津波対策を確立することが必要である。

【主な取組】

- 中央防災会議の議論等を踏まえ、防災基本計画に「津波災害対策編」が新設されたこと等を踏まえ、地域防災計画の見直しの参考となる留意点や参考事例等を地方公共団体に周知(平成23年12月)
 - ・ 災害の初期対応について時間経過に即して作成することや、住民避難を柱とした応急対応に留意すること等、実効性のある計画にするための工夫を提示
 - ・ 個別の留意点を被害想定、避難対策等に分類して整理したことに加え、85の参考事例を掲載
- 災害対策基本法の一部改正(平成24年6月)大規模広域な災害に対する即応力の強化、被災者対応の改善等について改正

●津波避難対策の推進

今後発生が懸念される南海トラフの巨大地震に起因する津波災害等に備えるため、地域における総合的な地震・津波対策を確立し、津波避難計画等の策定の推進が必要である。



避難階段(静岡県沼津市提供)

【主な取組】

- 市町村の津波避難計画策定の参考となる「津波対策推進マニュアル検討報告書(平成14年3月消防庁)」を平成24年度内に改訂し、地方公共団体に提示予定
- 地方公共団体が実施する津波避難タワー、避難路・避難階段の整備、避難所における防災機能の強化等に対する財政支援措置を実施している

●災害情報等の伝達

東日本大震災においては、市町村防災行政無線(同報系)、Jアラート等は住民への大津波警報など災害情報伝達手段として有効に活用された一方で、地震の揺れや津波による倒壊・破損や電源喪失等により、情報伝達に支障が生じた例もあった。

【主な取組】

- 市町村防災行政無線(同報系)の整備に対する財政支援措置を実施している
- 岩手県大槌町、宮城県気仙沼市等において災害情報伝達手段の多様化実証実験を実施している
非常用電源の充実等による耐災害性の強化や多様な情報伝達手段の活用、様々なメディアとの連携等について検証
- 実証実験を踏まえ、災害情報伝達手段の多様化に係る推奨仕様書を策定し、全国に配布予定
- Jアラートによる迅速かつ確実な情報伝達の実施に向けた訓練等の充実を図る

●消防救急無線のデジタル化の推進

東日本大震災においては、地震動や津波による消防救急無線の機器や基地局の被害により、緊急消防援助隊等の出動部隊と応援調整本部との通信、同県内の部隊同士の通信等の一部に問題が生じた。大規模災害時の緊急消防援助隊の応援と受援のスムーズかつ一元的な実施が必要である。

【主な取組】

- 平成28年5月末の期限を踏まえ、財政支援措置、技術アドバイザーの派遣、デジタル化実証実験で得られた知見の提供などの支援策を推進している

消防職員の初動活動及び消防職団員の安全対策（第2章）

●大規模災害発生時における消防本部の効果的な初動活動

大規模災害発生時における効果的な初動活動や、消防本部と消防団との円滑な連携のあり方等について検討が必要である。

【主な取組】

- 大規模災害発生時における消防本部の効果的な初動活動について検討を実施し、以下の内容等を取りまとめ、全国の消防本部に配付（平成24年4月）
 - ・ 初動期においては、限られた消防力を効果的に活用することが重要
 - ・ 効果的な初動活動を行うため、事前計画の策定や事前計画に基づいた訓練の実施が必要
 - ・ ①災害対応体制及び情報管理体制の確立、②消防活動方針及び部隊運用方策、③消防団等との情報共有及び連携のあり方、④長期化活動への対策、⑤津波災害時における安全管理などの効果的な活動方策

●消防団の安全対策と充実強化

東日本大震災においては、消防団員が水門等の閉鎖、住民の避難誘導や夜間の見回りまで、実に様々な活動に献身的に従事した一方で、多くの消防団員が犠牲となったことを重く受け止め、その教訓を今後活かすことが必要である。

【主な取組】

- 大規模災害時における消防団活動のあり方について検討を実施し、津波災害時の消防団員の安全確保対策や、消防団の装備・教育訓練等の充実、若者が入りやすい消防団に向けた取組等について取りまとめ、以下のような取組を行っている。
 - ・ 市町村に津波災害時の消防団活動・安全管理マニュアルの作成等を推進するよう通知（平成24年3月）
 - ・ 47都道府県において、災害対応指導者育成支援事業を開催している
 - ・ 全国10箇所において、消防団・自主防災組織の理解促進シンポジウムを開催している

- 消防団員の活動中の安全確保のための装備の整備を支援する補助制度を設け、ライフジャケット、投光器等を配布（平成23年度補正（第3号））
- ライフジャケット等の安全装備品に対する地方交付税措置を拡充（平成24年度）

緊急消防援助隊の効果的な運用・施設整備等（第3章）

今後発生 of 切迫性が指摘されている大規模地震への対応を念頭に、緊急消防援助隊の活動がより効果的・効率的に行われるよう、長期に及ぶ消防応援活動への対応や消防力の確実かつ迅速な被災地への投入等の課題に対応していくことが必要である。



緊急消防援助隊の野営状況
(新潟市消防局提供)

【主な取組】

- 長期に及ぶ活動を支援するための燃料補給車や、機動力・走破力を向上させた大規模震災用高度救助車等を整備している



燃料補給車

- 各都道府県ごとに策定している応援等実施計画及び受援計画の見直しを支援している
- 広範囲に甚大な被害が発生した場合も想定した緊急消防援助隊の出動計画の見直し等を実施している
- ヘリサット等の整備による広域的な情報収集体制及び情報共有体制の強化を図っている

民間事業者における地震・津波対策（第4章）

●危険物施設における地震・津波対策等

地震の揺れにより、危険物施設の建築物や配管等が破損する被害や津波により施設全体が損壊する等の被害が発生していることから、危険物施設や石油コンビナート施設の安全確保のための対策が必要である。



津波により屋外タンク貯蔵所の配管が破壊しタンク内の危険物が流出した状況（仙台市消防局提供）

【主な取組】

- 危険物の規制に関する規則を改正し、予防規程への記載事項に津波対策を追加（平成24年5月）
- 屋外タンク貯蔵所のタンクの規模や津波浸水想定等に基づく津波被害シミュレーションツールを作成し、ホームページで提供している
- 特定防災施設等及び防災資機材等における、地震及び津波の発生頻度等に応じた対策の考え方等を取りまとめ、石油コンビナート所在の道府県に通知（平成24年3月）
- 震災時における危険物の取扱い等の実態調査を行うとともに、災害時における応急的な危険物の貯蔵又は取扱いに係る安全確保のあり方について検討

●石油コンビナート等防災体制

石油コンビナートの災害では、特定事業所外に被害が及ぶ爆発や火災等への対策とともに、特定事業所の自衛防災組織の地震・津波時の運用や安全管理、住民避難等が課題である。また、防災アセスメント指針の見直しや、特定防災施設等及び防災資機材等が地震動により受ける影響評価方法について整備等も必要である。

【主な取組】

- 石油コンビナートにおける事業者の自衛防災体制、関係地方公共団体における防災体制と周辺住民の安心・安全確保のあり方や、石油コンビナートの被害予測等に関する技術的な検討を実施している

原子力災害への対応（第5章）

●避難指示区域における管轄消防本部の活動等

各市町村の復旧・復興と合わせて消防体制の充

実・強化を図るとともに、消防庁としても関係省庁、原子力災害現地対策本部、福島県、関係市町村等と連携し、管轄消防本部への支援を引き続き行うことが必要である。

【主な取組】

- 管轄消防機関において、応急仮設住宅への防火・防災指導、住民の一時立入時の警戒活動、福島原発への防火指導や自衛消防組織の訓練指導等を実施
- 消防庁において、管轄消防本部が整備する簡易型防火水槽や火災監視カメラの設置等に対する財政支援措置（平成23年度補正（第1号））



火災監視カメラ
（双葉地方広域市町村圏組合消防本部提供）

●消防機関における活動対策等の充実強化等

福島原発事故を踏まえ、消防庁では活動マニュアルの見直しや、また、原子力防災対策を重点的に講ずべき地域に入ることとなった地方公共団体では地域防災計画において、原子力災害対策を定めること、広域での避難体制を確保すること等が急務である。

【主な取組】

- 「原子力施設等における消防活動対策マニュアル」の見直しを検討中
- 放射性物質事故対応資機材の配備（平成23年度補正（第1号））
- 「地域防災計画（原子力災害対策編）作成マニュアル」の改定により、関係地方公共団体における地域防災計画の見直しや、訓練等を通じた原子力防災体制の充実強化を支援



個人線量計

第Ⅱ部 消防行政を取り巻く現状と課題について

消防法の一部改正（第1章第1節）

①東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模・高層ビルを中心にビル全体の防災管理を強化する必要性が高まるとともに、近年、建築物全体の防火管理体制があいまいな雑居ビル等を中心とした多数の死者を伴う火災被害が頻発、②検定の未受検、不正受検の消防用機器等が市場に流通する事案が発生、③公益法人事業仕分け（平成22年5月）における、「検定」についての自主検査・民間参入拡大に向けた「見直し」等の評価結果などを踏まえ、消防法の一部改正を行った。

円滑な施行に向け、地方公共団体や消防関係者へ必要な情報提供、助言等を実施している。

【改正内容】

- 雑居ビル等における防火・防災管理体制の強化（平成26年4月1日施行）
 - 雑居ビル等について、「統括防火管理者」の選任を義務付け
 - 大規模・高層の建物について、「統括防災管理者」の選任を義務付け
 - 統括防火管理者及び統括防災管理者に対し、それぞれ各防火管理者及び各防災管理者への指示権を付与
- 消防機関による火災原因調査権の拡大（平成25年4月1日施行）
 - 消防機関に対し、製造・輸入業者への資料提出命令権及び報告徴収権を付与
- 消防用機器等の違法な流通を防止のための措置の拡充（平成25年4月1日施行）
 - 販売業者等が、規格不適合品や規格適合表示のない検定対象機械器具等・自主表示対象機械器具等を市場に流通させた場合における、総務大臣による回収等の命令権の創設（最高1億円の罰金刑）
 - 規格不適合品や規格適合表示のない検定対象機械器具等・自主表示対象機械器具等を市場に流通させた場合における罰則の引き上げ（30万円以下の罰金→1年以下の懲役又は100万円以下の罰金（併科有り））
- 消防用機器等の「検定」制度等の見直し（平成25年4月1日施行）
 - 登録検定機関の要件のうち、試験設備の「保有」要件を緩和し、民間参入を促進
 - 「個別検定」を「型式適合検定」に改め、その実施方法を明確化
 - 日本消防検定協会の業務のうち、「鑑定」を廃止し、「製造業者等からの依頼に応じて評価業務を行うこと」を業務として規定
 - 自主表示対象機械器具等の製造業者等に対し、検査記録の作成・保存を義務付け

福山市ホテル火災を踏まえた防火安全対策（第1章第2節）

平成24年5月13日、福山市のホテルにおける火災の発生により、死者7名、負傷者3名の人的被害が発生した。消防庁においては消防庁長官の火災原因調査を実施するため、職員を派遣した。

火災が発生した建物は、木造部分と鉄筋コンクリート造部分が一体利用された建築基準法違反の建物となっており、階段の防火区画（たて穴区画）の未設置など8項目が指摘されており、また、平成15年の最終査察時に消防用設備等の点検報告の未報告など3項目が指導されていた。

この火災を踏まえ、全国のホテル等に対し、建築部局と連携して緊急調査を実施した。

【緊急調査の実施】

- 対象：全国の3階建て以上で防火管理者の選任義務を要するホテル・旅館等のうち、昭和46年以前に建築されたもの（現行の建築基準法の建築構造、防火区画及び階段の規定に適合しているものを除く。）
- 797施設のうち、549施設において何らかの消防法令違反、47施設において重大な違反。
 - 調査結果を踏まえ、消防本部において重点的に是正の徹底を図る。

消防法令違反の状況

	棟数	割合	備考
調査対象施設数①	797	—	—
何らかの消防法違反があるもの②	549	68.9%	②/①
重大な違反があるもの③	47	5.9%	③/①

※ 重大な違反とは、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備又は自動火災報知設備のいずれかの設備が、その設備の設置義務部分の床面積の過半にわたり設置されていないものをいう。

消防法令違反の主な内容

設備の種類	義務施設数	違反施設数		重大な違反以外の主な内容
		重大な違反	重大な違反以外	
屋内消火栓設備	426	33	76	ホース耐圧試験未実施
スプリンクラー設備	56	1	13	一部散水障害、一部未警戒
自動火災報知設備	791	17	232	感知器の一部未警戒

また ホテル火災対策検討部会を発足し、ホテル・旅館等における火災被害拡大防止対策及び火災予防行政の実効性向上等について検討を行い、中間報告（以下概要）を取りまとめた。中間報告



火災建物の外観

の内容を踏まえ、関係機関と連携しながら、実施に向けて検討している。

【ホテル火災に係る課題：多数の死傷者が発生した要因】

- ・ 建物が耐火構造でないため、火災が出火室及びその近傍から上階へ拡大
- ・ 階段部分の防火区画（たて穴区画）が設けられておらず、火災や煙が階段を経由して上階に拡大
- ・ 消火器や屋内消火栓設備を用いた消火活動が未実施

【火災予防上の課題とその対応の考え方】

- 各種規制について
 - ・ 現行の各種規制について適切な遵守
 - ・ 小規模ホテル・旅館等（300㎡未満）への自動火災報知設備の設置義務化について他の小規模就寝施設の規制を含めて総合的に検討
- 立入検査と違反処理の推進方策について
 - ・ 建築構造の適合性も含め、的確に人命危険の高い対象物のふり分けを行い、計画的な立入検査が実施される体制の整備
 - ・ 危険性・悪質性の高い違反を選別して厳格な違反処理に移行する体制の整備
 - ・ 違反処理に携わる職員の育成に係る研修等の実施
- 火災予防上の危険に係る公表制度のあり方について
 - ・ 「旧適マーク制度」の仕組みを再評価し、新制度として構築することも一つの方策
 - ・ 「旧適マーク制度」の点検項目を基本とし、事業者の申請に基づき、消防機関が認定する制度の整備

市町村の消防の広域化（第2章第2節）

小規模消防本部においては、①複雑多様化する災害への対応、②高度な装備や資機材の導入及び専門的な知識・技術を有する人材の養成等、③組

織管理や財政運営面における対応など、様々な課題を抱えている場合が多い。

これらの課題に対応するため、消防庁においては、平成6年（1994年）以降、市町村の消防の広域化を積極的に推進している。

○ 平成18年の消防組織法改正

広域化の理念及び定義、基本指針、推進計画及び道府県知事の関与等を規定

○ 「市町村の消防の広域化に関する基本方針」（平成18年7月）の策定

- ・ 平成19年度中に都道府県において推進計画を策定
- ・ 推進計画策定後5年度以内（平成24年度まで）を目途に広域化を実現

○ 消防庁の取組

- ・ 消防広域化推進アドバイザーの派遣、消防広域化セミナーの開催
- ・ 広域化に伴って必要となる経費に対する財政措置

これまでの広域化の実績は11件であり、今後、平成24年度（平成25年4月1日を含む。）までに15件、平成25年度以降に6件の広域化の見込みとなっている。

- ・ 平成21年4月 富良野広域連合消防本部、東広島市消防局、久留米広域消防本部
 - ・ 平成22年4月 東京消防庁
 - ・ 平成23年4月 砺波地域消防組合消防本部、北はりま消防本部
 - ・ 平成24年4月 砂川地区広域消防組合消防本部、置賜広域行政事務組合消防本部、宇部・山陽小野田消防局、ひたちなか・東海広域事務組合消防本部
 - ・ 平成24年10月 東近江行政組合消防本部
- 計11件

基本指針の定める広域化の推進期限（平成24年度）を踏まえ、第26次消防審議会において、今後の推進方策等を中心に審議を行い、中間答申がなされた。今後、中間答申の内容等を踏まえつつ、基本指針の改正の検討等を行う予定である。

【消防組織法第31条に基づく市町村消防の広域化に関する中間答申（概要）】

- 広域化の評価及び継続の必要性
 - ・ 広域化の取組を引き続き推進することが必要
- これまでの状況を踏まえた広域化に関する基本認識の在り方

- ・ 現行の30万人の管轄人口目標に必ずしもこだわらず、地域の特性や実情を十分に踏まえて対応
- ・ 特に次のような地域を重点的に支援していくべき
 - ① 消防本部の規模が小さい市町村や非常備町村など、今後、十分な消防防災体制が確保できないおそれがある市町村を含む地域

- ② ①以外であっても広域化の気運が高い地域
- 広域化の実現の期限
 - ・ 一定の期限を区切り、広域化を着実に推進するため、5年程度延長することが適当
- 今後の広域化の取組の具体的な方向性
 - ・ 広域化に係る課題に対する再検討を行い、地域の実情に応じたきめ細かな取組が必要

なお、白書の構成は以下のとおりである。

○第Ⅰ部 東日本大震災を踏まえた課題への対応

第1章 地震・津波対策の推進と地域防災力の強化

防災基本計画の修正や地域防災計画の見直し、災害対策基本法の改正、地域における津波避難対策の推進や住民への情報伝達のあり方 等

第2章 消防職員の初動活動及び消防職団員の安全対策

大規模災害発生時における消防本部の効果的な初動活動、消防職団員の活動時の安全対策や惨事ストレス対策、津波災害に対する消火、救助、救急活動 等

第3章 緊急消防援助隊の効果的な運用・施設整備等

緊急消防援助隊の車両や資機材等の整備、広域活動拠点の整備、緊急消防援助隊の出動計画の見直し、広域的な情報収集や情報共有の体制強化 等

第4章 民間事業者における地震・津波対策

建築物における防災管理体制の強化（消防法の改正）、危険物施設や石油コンビナート施設における地震・津波対策、危険物の貯蔵又は取扱いに係る安全確保 等

第5章 原子力災害への対応

福島第一原子力発電所事故を踏まえ、避難指示区域における管轄消防本部の防火対策、原子力施設等における活動対策マニュアルや原子力災害に係る地域防災計画の見直し 等

第6章 東日本大震災を踏まえた研究開発

消防防災科学技術高度化戦略プラン（2012）の取りまとめ、震災を踏まえた平成23年度からの研究計画の見直しと研究推進 等

○第Ⅱ部 消防行政を取り巻く現状と課題について

第1章 災害の現況と課題

建築物における防火・防災管理体制の強化や消防用機器等の「検定」制度の見直し等を内容とする消防法の一部改正、ホテル火災を踏まえた防火安全対策に加え、火災による死者の状況等の火災予防行政の現況と課題、危険物施設における災害、突風や九州北部豪雨等の風水害や原子力災害等の各種災害の現況と課題、南海トラフ巨大地震等の発生に向けた対策 等

第2章 消防防災の組織と活動

常備消防機関及び消防団の体制や活動状況、市町村の消防の広域化の推進、消防職団員の教育訓練、救急及び救助の体制、緊急消防援助隊の活動 等

第3章 国民保護への対応

国民保護法に基づく国民の保護に関する措置の概要、Jアラートの整備・高度化、北朝鮮のミサイル発射事案への対応 等

第4章 自主的な防火防災活動と災害に強い地域づくり

国民の防火防災意識の高揚、地域における自主的な防災活動や防災基盤の整備 等

第5章 国際的課題への対応

国際緊急援助隊としての消防救助チームの活動や開発途上諸国への消防技術協力 等

第6章 消防防災の科学技術の研究・開発

消防研究センターが実施している研究開発や火災原因調査等及び災害・事故への対応、競争的研究資金による産学官連携の推進、消防機関における研究開発 等

○ 附属資料

ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 出演者紹介

財団法人 日本消防協会



平成24年10月放送分に
出演の消防応援団
千葉紘子さん

10月6日又は10月7日放送



沖縄県浦添市消防団
団員 外間 等さん

初めての全国放送で、消防応援団の千葉さんとの緊張しながらの出演でしたが、自分の思いと、浦添市消防団について、伝えることができた事は本当に良かったと思っております。これからも、安心・安全な街「浦添市」を目指し、市民のための浦添市消防団として活動を続けていく事で、消防団を理解していただき、多くの方々に応援してもらえるよう頑張っていきたいと思っております。
千葉さん、スタッフの皆さん、ありがとうございました。

10月13日又は10月14日放送



大阪府茨木市消防団
副分団長
木下 修一さん

応援団の千葉紘子さんと対談する事ができ、大変緊張しましたが千葉さんや山本アナウンサーに優しくリードして頂きとても楽しい時間を過ごせました。
今年度から副分団長になり初めての事はばかりですが他の団員さんと協力し地域防災に頑張ります。
貴重な体験ありがとうございました。

10月20日又は10月21日放送



岐阜県大垣市大垣消防団
団長 山田 幸雄さん

消防応援団の千葉さんとお話させていただき、ありがとうございました。
まだまだ、大垣市大垣消防団について紹介させていただきたいことはたくさんありましたが、今回の放送を機にひとりでも多くの方が消防団活動を理解していただき、共に郷土を支える仲間が増えていただければ幸いです。

10月27日又は10月28日放送



埼玉県三郷市消防団
団員 加藤 美穂子さん

消防団活動を通じて多くの人と出会えた事が、私の大きな財産となっています。今回のラジオ出演を通じて、消防団に興味を持った方がいると嬉しいです。

平成24年11月放送分に
出演の消防応援団
水香さん



11月3日又は11月4日放送



岡山県和気町消防団
団員 新田 章博さん

大変貴重な経験をさせて頂き、有難うございました。
大会の結果は、チーム力の結果だと思います。日本一
のチームに協力していただいた皆様に感謝!!

11月10日又は11月11日放送



長崎県壱岐市消防団
小隊長（部長） 江口 正弘さん

この度は、番組に出させて頂き、ありがとうございました。
私たちの活動はこれからも住民を守るために
続けて参りますので、全国各地の消防団員の為にも、
もっともっと消防団員の活動や紹介をして頂けます
様、お願いします。

11月17日又は11月18日放送



広島県福山市消防団蔵王分団 第4班
班長 浅利 光輝さん

ラジオ出演は全国消防操法大会よりも緊張しまし
た。佐藤水香さんの陽気な「応援歌?」から始まり、
山本アナウンサーともお話しが出来大変楽しかったで
す。貴重な経験ありがとうございました。

11月24日又は11月25日放送



秋田県三種町消防団
副部長 新堀 一利さん

この度は、第23回全国消防操法大会優秀選手とし
てラジオ出演させて頂き、有難うございます。
緊張してしまい原稿通りにはいきませんでした。が、
佐藤水香さんと山本アナウンサーに助けて貰い、無事
終わることが出来ました。
三種町消防団としても4年後をめざし、消防操法を
頑張っていきたいと思えます。



平成24年12月放送分に
出演の消防応援団
西川きよしさん

12月8日又は12月9日放送



大阪府高槻市消防団
副団長 松山 光夫さん

吉本新喜劇を観て大きくなった自分にとって、西川きよしさんと直接話し合える機会を与えて下さった皆様方に感謝申し上げます。

12月15日又は12月16日放送



山梨県山梨市消防団八幡分団第4部
部員 小林 博さん

きよし師匠とお話することができとても嬉しく思います。これからも地元の財産である消防団や伝統・文化を大切に守り、地域住民から信頼して頂けるように地域防災の要として【小さなことからこつこつと】頑張っていきたいと思います!!

12月22日又は12月23日放送



宮城県東松島市消防団
団員 齋藤 剣一さん

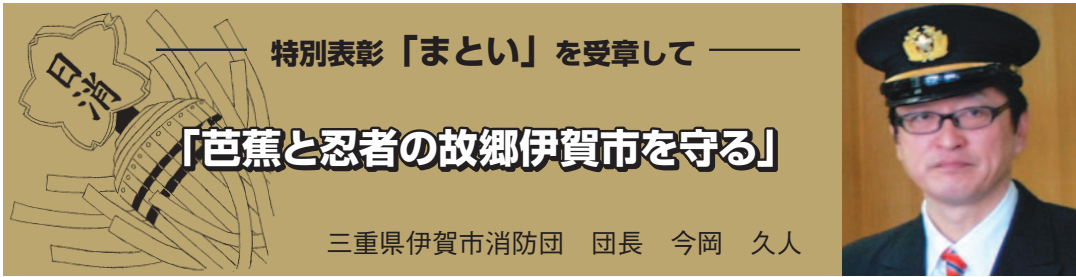
今回は、大変貴重な体験をありがとうございました。西川きよしさんは大変気さくな方であつという間の時間でした。これからも東松島市消防団の一員として少しでも地域の安全、復興のため頑張っていきたいと思ひます。

12月29日又は12月30日放送



長崎県小値賀町消防団
班長 畑村 早織さん

とても楽しくお話しをさせて頂きました。これからもラッパ隊として小値賀町消防団に華を、そして町が元気になるように頑張ります。



特別表彰「まとい」を受章して

「芭蕉と忍者の故郷伊賀市を守る」

三重県伊賀市消防団 団長 今岡 久人

はじめに

平成24年2月23日に日本消防会館（ニッショウホール）において「第64回日本消防協会定例表彰式」が盛大に挙行政され、かねてより念願であった特別表彰「まとい」を拝受致しました。全国に数ある消防団の中で、この度の受章は我々消防団員のみならず、諸先輩方や消防関係者にとってこの上ない榮譽であり、まさに身の引き締まる思いであります。

さらに春と秋の褒章において、2名の副団長が「藍綬褒章」を拝領いたしました。24年は伊賀市消防団にとって、この上ない喜びと誇りの年であり、心から皆さまに敬意と感謝を申し上げ、より一層の精進を重ねていく所存でございます。

伊賀市の紹介

伊賀市は平成16年11月に、上野市、伊賀町、島ヶ原村、阿山町、大山田村、青山町の1市3町2村が合併して誕生した面積558.17km²、現在の人口は98,086人の歴史と伝統のまちです。市内には上野城、芭蕉生家や忍者屋敷な



ラッパ隊



消防団員募集

ど史跡も多く伊賀忍者、松尾芭蕉の生誕の地としても知られています。また紀伊半島のど真ん中に位置し寒暖の差が大きく、古琵琶湖層の肥沃な土壌と相まって、「伊賀牛」、「伊賀米」「伊賀酒」等の農産物は古来より有名で、主に京阪神地方に出荷されています。

伊賀市消防団の紹介

合併前6団であった消防団が合併と同時に1団6方面隊に編成されました。団長以下条例定数1,510名でポンプ車4台、小型動力ポンプ、積載車等151台の大所帯で地域の住民の安全を守っています。しかし全国的な団員不足は伊賀市も同様で、少子高齢化や過疎化のため団員の確保には大変苦慮しています。

そこで25年度より消防職団員のOBを中心に「支援団員」という災害活動のみで訓練等には参加しない機能別団員を定数内で組織し団員の拡充を図る計画です。さらには方面隊を廃し分団を再編、出動範囲を効率化して機動力を高めていく所存です。

消防団の一年

年の初めにラッパの音が響いて団員が一堂に会して一年の計である出初式が始まります。その後は緊急車両の安全運転講習、文化財防火訓練や春季全国火災予防週間中のパレード等を経て新年度を迎え、初任者訓練、指導者訓練そして夏期訓練へと続きます。当団ではポンプ操法が大変盛んで、この期間には連日各分団で選手と応援団員が一丸となりポンプ車や小型ポンプの操法訓練が繰り返されており、数年に一度回ってくる三重県消防操法大会では度々の優勝経験があります。

秋には伊賀市を挙げての総合防災訓練が実施され、住民避難誘導、土壌積み、一斉放水と消防団が大きな役割を担います。同時期には大勢の団員が三重県消防学校の指導員科や幹部科等に入校して幹部としての教養を身につけます。そして秋季全国火災予防週間に伴う訓練や巡回を行い、最後に年末警戒で一年を締めくくります。

またそれぞれの行事の間には火災はもちろんのこと、山間急傾斜地の多い伊賀市ではゲリラ豪雨や大型台風による集中豪雨で土砂災害が頻発します。近年では高齢者の行方不明事案が増加傾向にあり、団員の負担増となっています。この他にも住宅用火災警報器設置、火の用心札の各戸配布、新入団員の入団促進と枚挙にいとまがありません。

そこで21年度から「消防団協力事業所表示制度」を導入し側面からの団員支援を行うと



平成18年度ポンプ車全国大会



夏期訓練

ともに、25年度より新たに女性部を設置し女性団員の確保も図っていく計画です。

終わりに

最近、南海トラフを震源とする巨大地震が近い将来発生するというニュースが発表されました。伊賀市は紀伊半島内陸部に位置するため津波の心配は有りませんが山間地に集落が点在し、地滑り危険地帯が随所にみられます。また安政時代には直下型の活断層地震の生々しい記録も残っており旧市街地の古い木造住宅の倒壊とそれに伴う火災も懸念されます。このように多くの危険から住民の安心安全を確保することは決して容易ではありません。この度の受章を契機に今後更なる努力と研鑽に努め日本消防協会をはじめ消防関係各位への感謝と御礼とさせていただきます。

最後になりましたが、23年3月11日の東日本大震災で殉職されました我々の同志である二百数十柱の御霊に衷心より哀悼の意を表し、一日も早い復興を切に願い受章の挨拶といたします。



出初式



「日本一元気な消防団」 を目指して



南足柄市消防団 団長 瀬戸 均

1 . 南足柄市の紹介

南足柄市は、神奈川県西端にあたり、「金太郎のふるさと」として知られています。

豊かな水に恵まれ、昭和9年には現在の富士フィルムが進出し、世界的な企業に発展しています。さらに、平成14年にはアサヒビール神奈川工場が操業を開始しました。

本年度市制40周年を迎え、「自然のめぐみと活力にみち、いきいき輝くまち」を目指しています。

2 . 南足柄市消防団の概要

南足柄市消防団は、9分団28部で構成され、現在234名の団員が所属しています。消防団車両はポンプ自動車3台、小型動力ポンプ付積載車25台を配備しており、各部



大きな火災では放水口数が消防署より多くなる

の定員はポンプ自動車の部は13名、小型動力ポンプ付積載車の部は8名と、他市町村に比べ各詰所の人員が少ないのが特徴です。

3 . 南足柄市消防団の活動

災害対応として火災、台風、大雨、地震、行方不明者等に出場していますが、近年火災は減少傾向にあります。しかし、平成24年は2月に倉庫、住宅等4棟、3,000㎡を焼失し、市内全分団が出場した大火災を始め、多くの火災が発生しました。火災の周知は従来市役所で市内に防災行政無線で一斉放送をしていましたが、2年前、消防署の指令台が更新され119番通報と同時に、団員に火災の発生メールが送信されるようになり、火災出場までの時間



大雄山最乗寺で足柄消防組合との合同訓練



H24.10.7 第23回全国消防操法大会出場

が大幅に早くなりました。当市では消防団員に任命されているうちに、一回位は消防署より早く火災を消火したいと思っている団員が多いようです。

山林が多いため台風・大雨対応では、土砂崩れ・倒木が多く発生します。台風接近とともに本団は市役所に詰め、無線で指揮を執り、消防団は巡回を始めます。常備消防が組合消防であるため、冠水などの救援要請は消防署又は市役所に入ります。連絡を密にとりながら被害状況により、署と団で連携しつつ対応しています。

訓練は各分団・部で自主的に行う他に、全体で新任団員・部長・班長礼式訓練、部隊訓練、消防署との合同訓練などを実施しています。

また、平均団歴が約8年と短いため、器具取扱いを早く習得する手段として、消防操法に力を入れています。2年に1回市消防操法大会を部単位で実施します。団員の約半数が選手として参加するので、新任団員以外のほとんどの団員は操法ができます。県消防操法大会には分団の操法技術の均一化を図るため、全分団持ち回りで参加しています。平成22年と平成24年の神奈川県消防操法大会小型ポンプ操法の部では2大会連続で優勝することができました。こ

れにより第23回全国消防操法大会にも出場することができました。

中長期的視野に立った人材育成を目的とした、南足柄市中学校消防クラブが平成23年の市消防操法大会の会場で、消防団員が見守る中発足しました。クラブ員には宝くじの社会貢献事業により各種訓練用品が支給され、秋・春の火災要望運動時の広報パレードや年末火災特別警戒広報時に、消防団車両に分団内に住むクラブ員を乗せて、広報の手伝いをしてもらうなど、未来の南足柄の防災の担い手との交流を深めています。

4. おわりに

団員の定数割れは当市においても深刻な問題です。現在、条例定数より18名団員が不足しています。その対策として平成21年より団員勧誘の中核である部長全員を対象に研修を実施し、勧誘の仕方や成功事例などの意見交換を行っています。平成22年からは自治会長に定数確保の協力要請を行い、本年度は希望する部の管内に消防団員募集のチラシを全戸配布しています。この問題は抜本的な特効薬がありませんが、地域防災の要である消防団がより活動し易いよう努力していく所存であります。



中学校消防クラブと礼式訓練



「我がまち“はにゆう”を 我が手で守る 羽生市消防団」



羽生市消防団 団長 西田 哲三

1. 羽生市の紹介

羽生市は、埼玉県の北東部にあり、関東平野のほぼ中央に位置しています。市の北部は群馬県との県境で、「坂東太郎」の愛称で知られる一級河川の利根川が流れています。

当市の人口は、約5万7000人、面積は58.55km²、首都東京まで約60km。平成4年には東北自動車道羽生ICが開設され、交通の利便性は大幅に向上しました。

本市は、平坦な地形で農業と商工業の調和のとれた「衣料のまち」として、発展を遂げてきましたが、近年では「観光交流100万人」を目指し、様々なイベントが開催され、毎年11月には、まちおこしの一環として、全国のご当地キャラが集う日本最大の「ゆるキャラ®さみっとin羽生」が盛大に開催されております。

昨年は、東日本大震災の被災地を含む36都道府県から265のキャラクターが参集し、人気投票「ゆるキャラグランプリ」の発表・表彰式、ご当地グルメ及び物産コーナー等への来場者数は、2日間で約29万5千人を数え「羽生市のPR」と「まちおこし」に大きな貢献を果たしました。

イベント会場となった県営羽生水郷公園敷地内にある“宝蔵寺沼”は、国の天然記念物に指定され、現在日本で唯一の食中植物「ムジナモ」の自生地としても有名になっております。本市の代表キャラクターであ



ムジナモンと仲間たち

る“ムジナモン”は、このムジナ（イタチ科：アナグマ）という動物のしっぽに似ていることから生まれました。ほかのキャラクター“いがまんちゃん”をはじめとする6体の仲間たちと一緒に“我がまち”を輝かせております。

2. 消防団の概要

羽生市消防団は、昭和29年9月に発足、現在1本部9分団、4部で構成され、実員218名を有しています。団員の平均年齢は39歳と他の消防団に比較して若く、気力・体力・技術的に優れていると自負しています。

車両数は、消防ポンプ自動車(CD-I型)11台、連絡車1台を配備しており、有事の際の出動に備えています。

さらに、今年度末には、財団法人日本消防協会から「消防団多機能型車両」が交付されることとなり、団員は、消火活動訓練に加え、救助活動にも携われるよう資機材

の取扱訓練を計画中であります。

今後は、東日本大震災を教訓として、大規模災害発生時の迅速な初期対応として消防団詰所11か所に災害救助工具セットやレスキューボードなどを順次配備し、消防団の装備充実と活動技術の一層の向上に取り組んでまいります。

また、地域に密着した活動の一つとして「地域安全のための相互協力に関する覚書」を警察署と締結し、防犯運動活動として、駅前や大型ショッピングモール等での「街頭広報活動」に参加、「犯罪のない明るい地域社会づくり」にも貢献しています。

3. 消防団の活動

当市は、比較的災害に強いまちではありますが、東日本大震災の際に停電となり、電話などの通信手段が使用できない中、各消防団員は自主判断で管轄地域を中心に住民の安否確認、二次災害の発生防止に努め、地域の安全・安心に努めました。

震災後には、当市消防団は水防団を兼務していることから、加須市・羽生市水防事務組合の規約に基づき、利根川及び渡良瀬川の堤防点検を隣接する加須市と連携して行い、その結果を国土交通省へ報告いたしました。また、毎年5月には、有事に備え利根川の合同巡視、6月には水防工法訓練、



水防工法訓練



消防特別点検

11月には非常招集訓練を兼ねた消防特別点検が実施され、服装規律・機械器具点検・ポンプ車操法・市街地パレード・大火災を想定した勇壮な一斉放水訓練などが行われました。

更に、歳末特別警戒や春の火災予防運動期間中には、市内全域で火災予防巡行宣伝を行い、ほかには普通救命講習会、交通安全講習会、少年消防クラブの指導、防災訓練等にも積極的に参加し、こうした年間を通じた消防団活動が、地域における消防・防災の中心的存在として、市民から期待されています。

4. 終わりに

東日本大震災をはじめ、各地で被害をもたらした台風、竜巻、豪雨災害などを受け、市民の防災意識は、これまでになく高まっています。

今後発生が予測されている首都直下地震など大規模災害発生時の消防団の役割は、ますます重要なものとなっております。

このため、我が羽生市消防団は、地域の関係機関と連携を強固にし、火災時の消火活動はもとより、消防・防災に関する知識や技術を更に習得し、我がまち“はにゅう”の市民の生命・財産を守るため、活動してまいります。



「地域と一体となった 消防団活動」



南さつま市消防団 団長 東馬場 伸

1. 南さつま市の紹介

南さつま市は、鹿児島県薩摩半島の南西部に位置し、リアス式海岸や吹上浜砂丘など変化に富んだ海岸線を持ち国の名勝「坊津」及び坊野間県立自然公園の指定を受けた景勝地となっています。

それまでの加世田市、笠沙町、大浦町、坊津町、金峰町の1市4町が平成17年11月7日に合併して誕生し、人口は約38,000人、面積は283.3km²、市の総面積の58.3%が森林で中小の山々が連なり、平野は河川流域に沿って開けています。また、日本一の超早場米金峰コシヒカリや鹿児島ブランド第1号の加世田のかぼちゃ、砂丘らっきょうなどの特産物、歴史の中で培われてきた文化や伝統などの地域資源が数多くあります。



出初式での行進

2. 消防団の組織・概要

南さつま市誕生と同時に新組織が発足して以来、7年が過ぎた南さつま市消防団は、平成24年4月1日現在、1本部、旧市町単位の5方面隊、30分団、714名で編成されています。また、消防用車両については、ポンプ自動車22台、小型動力ポンプ積載車39台、小型動力ポンプ48台を配備し、市民の安心安全を守るべく日夜活動を続けています。

過去の消防操法大会では、ポンプ車の部で4回、小型ポンプの部で2回、県の代表として全国大会に出場するなど、消防団活動は盛んで、消防出初式などの際には消防団ラッパ隊による演奏も行っています。

3. 南さつま市消防団の活動

本市消防団の主な活動は、1月の消防出初式に始まり、春・秋の全国火災予防運動にあわせた広報活動や各分団での訓練、各地域で行われる花火大会等の警戒、年末の特別警戒までの年間を通して機材器具点検など随時行っていますが、各行事やイベントにも積極的に参



さんまを振る舞う団員

加し、本市が災害時相互応援協定を結んでいる岩手県釜石市から提供されたさんまを団員が焼いて参加者に振る舞うなど、地域に溶け込んだ活動を心がけています。さらに、団員が作った米を茨城県北茨城市に支援米として送り、市民夏祭りで振る舞っていただくなど遠隔都市との交流も深めています。

また、新入団員を迎える4月・5月には規律訓練・教養訓練を開催、応急手当普通救命講習会の実施、消防学校における基礎教育科・機関科には各方面隊から毎年3名ずつ入校するなど団員の資質の向上にも努めています。

毎年実施される市総合防災訓練には消防団として参加していますが、短時間で記録的な雨量を記録するゲリラ豪雨などの災害は、いつどこで発生してもおかしくない状況であり、過去に大水害や土砂災害を経験した本市住民にとっては、消防団の組織力・機動力は大きな期待となっています。そのために、今後は

自主防災組織と連携した訓練を実施し地域と一体となった消防団活動が求められているのではないかと思います。

4. おわりに

東日本大震災以降、市民の防災意識は高まっているものの、近年の社会状況の変化によりサラリーマンの増加や、地域コミュニティの変化により後継者不足による団員の高齢化、団員確保の難しい状況は、多くの消防団が抱える問題であります。消防団に参加することで地域を守り、大切な人の命を守ることができるといった社会貢献活動への意識を高め、新入団員の勧誘に努めたいと思います。

最後になりますが、地域住民の安心安全を守るために、今後も各地域の自主防災組織などの関係機関と協力・連携しながら地域に信頼される消防団活動に取り組んで参ります。



市総合防災訓練の様子



シンフォニー（福島県）

「明るい防火・防災活動をめざして」

新地町消防団 団員

山田 裕貴子

私たちの住む新地町は、福島県浜通りの最北端にあり、東は太平洋に面し、西は阿武隈山系を境として宮城県と接した、人口約8,000人、面積46.35km²の小さな町です。

西部の阿武隈山系からのびる丘陵の間の平地に、市街地や田畑、果樹園が広がり、海は遠浅で澄んだ水と美しい砂浜が続いています。

気候は春夏秋冬を通して温暖で平均気温は12℃、大変過ごしやすい気候です。自然豊かな町の主産業は、農業と漁業です。

また、本町をふくむ相馬地域の総合的開発をめざした巨大プロジェクト「相馬地域



春季検閲式アナウンス

開発計画」により、重要港湾・相馬港や、新地火力発電所を背景に中核工業団地が生まれ、新しい発展拠点として期待されています。

新地町消防団は、4分団10部、団員数は319名で構成されています。私たち女性消防団員は平成4年9月に結成され、現在12名の団員で活動をしています。

私は平成21年に入団をしました。当時の私は、消防団の活動というのは、火災現場で消火活動をするのが消防団だと思っていましたので、男性団員と同様に現場へ出なければいけないのか?私に何かできることはあるのだ



ひとり暮らし老人世帯訪問

ろうか?と不安に思っていました。しかし、辞令交付後の研修により、消火活動だけが消防団の仕事ではないこと、私たち女性消防団に求められているのは、女性ならではの心配り、気配りでの防火活動を中心とした活動だということを理解しました。

現在、女性消防団の大きな役割として、私たちは主に火災予防広報の活動を行っています。

春秋の火災予防運動期間中には、一人暮らし老人世帯、また老人のみの世帯を訪問し、防火診断を行います。ほんとにわずかの時間ですが、皆さん私たちの声に熱心に耳を傾けてくれます。私たちの訪問をきっかけに防火意識を高めていただけたらと期待しています。その他の活動として、春季点検、出初式、消防操法大会など各行事の受付、アナウンスなども私たちの出番です。

また、昨年3月11日に発生した東日本大震災は、震度6強の地震と、その直後に発生した大津波により、新地町にも甚大な被害をもたらし、町では116名の方が亡くな



3.11東日本大震災被災状況

りました。津波は標高10m未満の多くの土地に浸水し、浸水面積は町の全面積の5分の1にも及び、600戸を超える住宅が全半壊するなど、過去に類を見ない大規模な災害となりました。

震災時は消防団員が日ごろの訓練を生かし救助活動等に大きな役割をはたすことができました。

今後は、地震や火災のみならず、津波や原発、豪雨災害等のあらゆる災害にも備えなければなりません。

東日本大震災を経験し、私たち女性消防団員は、防火活動のみならず、自らが積極的にこれらの訓練に参加し、地域の防災力の向上に努めていく必要があると感じました。

今後ますます消防団員に対する住民の期待は増加すると思われます。私たちは、女性消防団員として、きめ細かな対応や優しさ、思いやり等の配慮を持ち、女性らしく明るく防火・防災活動を続けていきたいと思えます。



3.11東日本大震災被災状況



シンフォニー（長崎県）

「ラッパ隊で島の華になる！」

小値賀町消防団 本部員 班長
畑村 早織

私の住んでいる小値賀町は、長崎県西側の五島列島の中でも北部に位置する、人口約2900人の小さな島です。風光明媚で、おもてなしの心が根付いた島民は皆優しく、昔ながらの町並みや人の生活が残る、懐かしくも温かい自慢の島です。しかし、高齢化は進み、人口の43%が高齢者で占められています。

小値賀町消防団は、全団員数149名で、本部と10個分団で構成されています。

女性消防団は、本部員として平成22年4月に誕生し、発足時は2名でした。

私たち小値賀町の女性消防団は全国的には珍しい女性だけのラッパ隊で、最初は2

名だった団員も現在は9名となり、職種も様々な20代から30代で活動しています。

メンバーのほとんどが、楽器演奏未経験者でラッパの指導者もおらず、入団当初は手探りで練習を行っていました。

操法大会に出場する分団の応援、激励の演奏から始まり、操法大会の応援にも行き、他市町のラッパ隊の演奏を聴き、勉強させてもらいました。

基本教練などほとんど行ったことのないメンバーなので、消防署へ基本教練の練習にも行きました。

昨年は島のグループホームから出演依頼がありクリスマス会でラッパの演奏をすることもありました。

小値賀町消防団では毎月1日、15日に機械器具の点検を行っています。私たちも同様に月2回の練習を目標にしていますが、仕事を持ったメンバーが決まった練習日に全員集まるのは難しく、思うように練習できませんでした。

それでも今年の出初式のために、練習場所を約



出初式の風景

2ヶ月間貸切り、それぞれ都合に合わせて練習しました。

全員揃うことができないまま本番を迎えましたが、町民の方に「華があってよかね〜!!」という言葉をいただき、大変うれしく入団してよかったと思いました。また、今年6月には初めて消防学校のラッパ課程の教育にも参加させていただき、ラッパについての基本的な構え方、水抜きの方

ラッパを持ったままの基本教練の仕方を学んだほか、他の市町のラッパ隊の現状等を知ることができ、大変勉強になりました。

9月には町の運動会で消防団員加入促進事業の一環として、消防団競技が行われ、私たちもラッパを演奏しながら団員を先導し、消防団の広報を行いました。

10月の初めには東京で行われた全国操法大会を見学し、消防団員の操法にかける熱意、心意気を肌で感じる事が出来ました。大会では、地元長崎県代表の壱岐市消防団が見事優勝し、大変感動しました。また、大会会場に併設された施設には災害が起こった際を想定した訓練などの展示があ



町民体育大会での演奏の様子

り、すごく勉強になりました。

10月末に行われた現地訓練では、佐世保市西消防署から講師の先生がいらっしゃって、ラッパの基礎、音が鳴る仕組み、音の出し方等基礎的なことから、楽譜の読み取り、曲の吹き方、ラッパを持った基本教練などの講義を受けました。今後の目標は応急手当指導員の資格を全員で取りたいと考えています。

小値賀町は高齢化も進み、独居老人等も多いので、これからもっと女性の団員数を増やし、火災予防訪問活動等、女性消防団としても活動できるようにしていきたいです。



現地訓練での様子

第23回全国消防操法大会 ポンプ車の部に優勝して

岡山県和気町消防団 団長 坂本 延夫



1 和気町の概要

和気町は岡山県の東部にあり、県庁所在地の岡山市から北東32kmに位置し、人口約1万5千400人、世帯数約6千200世帯、総面積144.23km²で、交通は、JR山陽本線と山陽自動車道が東西に走っています。また、山林・原野が総面積の約85%を占めており、一級河川吉井川が南北に、金剛川・初瀬川・王子川が東西に流れ、清流と緑に彩られている中山間のまちであります。

町では高齢化率は30%を超え、これまでのように行政区だけでは取り組めなくなったことを小学校校区等の地区で共に助け合いながら地域をつくるため、助け合いのまちづくりが進められています。

2 和気町消防団の紹介

和気町消防団は、平成18年3月1日に和気町・佐伯町の2町の合併と同時に新たなスタートをきりました。現在、1本部、8分団体制で、5つの機動部、49の部に、団長以下690名で構成されており、地域防災の一角を担っています。

消防団活動については、幹部会を毎月開催し、団活動の方針を決定、各分団の情報交換等を行っているほか、町の防災訓練への参加や火災予防運動の町内巡回、年末夜警、各種祭りの警備、消防団員減少を喫緊の課題ととらえ、次世代の地域防災を担う小中学生に団活動を知ってもらうため学校での講座の開催など地域に密着した活動を行っています。

3 全国大会優勝までの経緯

岡山県は、県大会が全国大会のように水出しの



秋本会長からメダルの授与

操法ではないため、1年前の県大会で代表チームの選考が行われることになっており、我が和気町消防団は、平成23年5月に開催された県大会で優勝し、全国大会への切符を手に入れました。

自動車ポンプの部では、4年前の東京ビックサイトで開催された第21回大会に続いて、和気町消防団としては、2年前の蒲郡ボートレース場で開催された第22回大会（小型ポンプの部）に続けての連続出場となりました。前回ポンプ車の部で出場した第21回大会では、岡山県勢初となる悲願の「全国優勝」を果たしています。優勝した直後、我々関係者は達成感と満足感で、この4年後の大会のことなど考えもしませんでした。しかしながら、選手達は大会終了後すぐに4年後を見据え、二連覇という偉業達成を目指して、既に訓練を始動していました。その姿勢を目の当たりにし頭の下がる思いでした。全国優勝を手にした選手達には、自信と誇りがあり、自分たちが全国で初めての二連覇を達成するんだという使命感も芽生えていた





ように思います。

今までの経験も選手達の自信になったと思いますが、何より全国優勝で得た「自信と誇り・使命感」を併せ持つことにより、年を追うごとに成長していき、その後の県大会では四連覇を達成しました。そして、全国大会出場が決まってから1年7ヶ月、雨の日も風の日も訓練を重ねる選手達の気持ちの中にゆとりがあるように思えました。とはいえ、全国覇者である重圧も計り知れないものであったと思います。

大会当日の東京臨海広域防災公園はあいにくの雨でしたが、出場消防団の先頭で入場、開会式終了後に競技に移りました。

和気町消防団の出場順は出場隊のトップを切る第一コース一番で、開会式終了後、直ちに準備を整え、出場隊は「さあ、楽しもう」と互いに合図を送ったそうです。

大声援の中、「岡山県和気町消防団、ただ今からポンプ車操法を開始します」我澤指揮者の勇ましい号令が響き渡り、競技が始まり動作、タイム、規律等スムーズに流れ、この大きな舞台で最高の操法を披露してくれました。結果が発表され、総合得点187.00点という得点が映し出されましたが、前回優勝時が190.00点という高得点だっただけに、今大会のこの得点がどれ位のものなのか見当がつかないという状況でした。しかしながら、出場後の現地報告会では、岡山県の選手団及び応援団に感動を与えてくれた選手達に対し、「これ

で負けたら仕方がない。最高の操法だった。」等々の声が飛び交い、最高の操法をやり遂げた選手達と握手する者、抱き合う者、涙を浮かべる者があちこちで見受けられました。

そして、すべての結果が出揃った瞬間、トップを守りきり、我が和気町消防団はもちろん、岡山県消防関係者の悲願でもあった前人未到の「二連覇」という最高の榮譽を手にし、応援席で共に喜びを分かち合いました。特に選手は、長くて苦しかった訓練の日々が走馬燈のように駆け巡り、感激に浸りました。また、今大会で戦った多くの消防団から「おめでとう」と言葉をかけていただき握手を交わしました。

表彰式では、出場選手が整列し表彰状と優勝旗が授与され、また、個人の部においても三番員の新田君が優秀選手賞を獲得し優勝に花を添えてくれました。

後日、分団長と選手と共に県庁へ出向き、知事から特別表彰をいただきました。また、町では優勝祝賀会も開催していただき、多くの方から「おめでとう」と「ありがとう」の言葉をいただき、会場の皆様と優勝の喜びに浸りました。

この度の優勝を糧に、消防団に対する応援の声を期待の声として受けとめ、地域住民が安全で安心して暮らせる町づくりに向け、更に防災意識を高め実行できるよう精進する所存であります。

結びにあたり、出場選手諸君、ご家族の皆さん、職場の皆さん、消防団を支援していただいている地域の方々、そして、御指導を頂いた消防学校、東備消防組合、岡山県消防協会をはじめ県内消防関係者の皆様、あらゆる面でバックアップしてくださった和気町に心から敬意を表し感謝申し上げますとともに、日本消防協会の益々の発展と全国消防関係各位のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。

最後になりましたが、今大会は東日本大震災発生後初めての大会であり、全国すべての都道府県が集結することができました。この意味ある大会に共に参加できたことに感謝を申し上げますとともに、現在も復旧・復興に向け日々ご尽力されておられます被災地の皆様のご健康を心より願っております。



表彰式において



表彰式後、坂本団長・延原副団長

第23回全国消防操法大会の 小型ポンプの部に優勝して

長崎県杵岐市消防団 石田地区 第二分団 第三小隊 小隊長 江口 正弘



私達、杵岐市消防団（石田地区第二分団第三小隊）は、小隊長以下10名で構成しており、今回、第23回全国消防操法大会の小型ポンプの部で悲願の優勝をすることが出来ました。

私達の全国大会への出場は2回目の挑戦であり、今から16年前、私達は市内で開催される地区大会及び市大会を初めて勝ち残り県大会へ出場、それから6年をかけて県大会で優勝することが出来ました。その時は全国大会への出場権利は無く、再度、2年後への全国への挑戦を行いました。1年もの歳月を費やして訓練を重ね、順調に全国大会への出場権利を獲得、初めての全国大会を経験し、5位優良賞と指揮者の優秀選手賞という評価を頂きました。

その後の大会において、私達は追われる立場のプレッシャーに立ち向かうことが出来ず、県大会はもとより、市内の大会ですら結果を残すことが出来ず、6年という歳月が過ぎていきました。

今年、8年ぶりの全国を目指すために、私達は一から足元を見直し、昨年の秋から訓練を開始しました。私達の訓練日は週6日間で、午後7時から9時までの約2時間を基本的な



操法



表彰

訓練とし、休日は日曜日と団員の所用の状況でとりました。まずは基本的な操法の流れを身に就ける為、約1ヶ月間の訓練を重ね、その後冬場は、主に走り込みを中心としたトレーニングを3ヶ月間行いました。

3月1日。私達はトレーニング期間を終え、これから迎える6月24日の地区大会に向け訓練を開始しました。私達は今回特に「所要タイム」と「ホースライン」に重点を置き、訓練に取り組みました。操法では、「指揮・規律」、「迅速且つ確実」、「柔軟な対応」が要されるので、日々の訓練に際し、指揮・規律においては、声を出す予令、号令の協調や音程のつかみ方、括弧訓練においての手足、体の動きや向きと共に体内の体重重心移動。迅速且つ確実においては、操作を素早く行う上でのホースや吸管等の握り方や結合部の目の配り方とポイント、更に手足や体の角度を合わせたり指先にも注意をしたり、柔軟な対応として、例えミスを行っても決して慌てない心境づくりと、次の動作に切り替える気転などを訓練の中に取り入れ、常に高い目標を持つよう心掛け、雨天時においても同様の取り組みを行いました。



ホース延長・吸管伸長

所要タイムとホースラインについては、選手と指導者とが一体となるよう、指導者は選手の動きを注視し、各ポイントでの時間を計測。操作開始の号令で動き出す第一歩から火点を射るまで、体の体重の使い方や手足の向き、資機材の掴み方や力加減と、日々ありとあらゆる取り組みを行いました。その結果、無事6月24日の地区大会を終え、翌週の7月1日の市大会を制し、8月5日の長崎県大会の出場権を獲得しました。私達にとっては8年ぶりの県大会出場となり、ここで必ず結果を出すことを誓い、これまでの地区大会、市大会よりも所要タイムの目標を上げ、訓練を続けました。

県大会当日。天気は快晴、風もなく真夏の日差しを浴びる中、本番に臨み、これまでの訓練の成果を十分に発揮することが出来、県大会を制することが出来ました。私達にとってこれまでの8年間。そして、昨年秋から取り組んだ思いが実り、念願の全国大会への出場資格を獲得しました。その後の2ヶ月間の

訓練においても、所要タイムの目標を40秒までに上げ、気持ちを新たにし取り組みました。選手は皆、体への故障を抱えておりましたが、8年前の5位優良賞を越える為、私達は今大会に全てをかける思いで、日々の訓練を重ね、どんな状況においても「自分自身を信じぬく気持ち」で大会に臨むことが出来る様、取り組みました。

11月6日の大会前日での公開練習では、明日の大会の状況を想定し、資機材設置から延長、収納までにおいて本番を見据えた取り組みを行い、明日の確認点や改善点を行いました。11月7日、全国大会当日。開会式より生憎の小雨模様であり、私達長崎県の出場順位は7番目でした。

雨があがるのを望みましたが逆に雨粒がひどくなり、状況としてはあまりよくありません。ですが、これまで自分自身を信じぬく気持ちを貫けるよう、日々の訓練を行ってきましたので、私達は気持ちを落ち着け大会に全力を出し切ることが出来ました。その後、栄えある強豪のチームは多々ありましたが、結果として100分の3秒差で悲願でありました優勝を手にすることが出来、日本一に輝くことが出来ました。

これまで家族や地域皆様のご支援と、関係各位皆様のご協力とご指導により、私達は最高の喜びを得ることが出来ました。本当に心より感謝致します。今後も、住民の生命・財産を守り、地域に安全と安心を約束するよう活動に取り組んで参ります。本当にありがとうございました。



全国大会操法訓練風景



表彰

女性消防団員リーダー会議について

(財)日本消防協会

平成24年12月14日（金）日本消防会館において、女性消防団員リーダー会議を開催いたしました。全国から18名の女性消防団員の方に出席して頂き、女性消防団員の役割などの課題や問題点について、活発且つ有意義な意見交換が行われました。主な意見等は、次のとおりです。



なお、この会議には、消防庁防災課長、鹿児島県、北海道、秋田県、静岡県、滋賀県、岡山県の消防協会長、田村圭子氏（新潟大学危機管理室 教授・消防審議会委員）及び茂木なほみ氏（主婦連合会 常任幹事・消防審議会委員）にも出席して頂き、会議中アドバイスを頂きました。

1 女性消防団員の役割について

- 女性が消防団に所属しているということで、消防団に対する母親世代の理解促進や、家族への防災意識の向上、また、団員が母親として参加している学校などの団体へのPRになっている。
- 消防団の活動の幅が広がってきている中で、男性団員が行うことに抵抗がある活動は、女性団員に任せたいということがよくある。
- 現場には出動しないという活動もいいと思う。女性にできることをやっていけばよい。
- 男性団員と全て同じ活動をする必要はない。女性にできることはたくさんある。
- 女性や子供に対して、お母さん、お姉さんの立場から防災指導や救急講習をすることは効果がある。女性が消防団にいること、それこそが女性消防団員の大きな役割であると思う。

2 女性消防団員の活動の問題点とその解決策等について

- 20代、30代の女性は、ライフステージの転換期で、結婚、出産、育児の中で、消防団活

動とのバランスがとれず退団する人もあるため、出産、育児休の規定が必要である。

- 女性消防団員の活動を維持していくためには、幅広い年齢層の団員が、お互いに時間や活動を補い、柔軟に長く続けていくことが大切。
- 女性消防団員の活動には色々な矛盾がある。時代が変わってきているため、大きな指針、あり方を示してほしい。
- 女性消防団員の活動指針を示すことは、それぞれの地域での事情が違うため、最終的にはそれぞれの団で決めていくほうがよい。
- 女性団員の活動を理解してくれる男性団員もいるが、消防団は男性のものという色が濃いところも残っている。
- 消防団の中でも、女性団員に対する考え方に温度差、地域差がある。
- 団長や団本部に、自分たちは何をしたいかという意見を出して、行動として示していくことも大切である。
- 女性消防団員確保や活動を知ってもらうため、ブログやFacebookを利用している。
- かっこよく見える活動服をつくってほしい。
- 近隣市町村の女性団員と年1回交流会を行っている。

3 その他大規模災害への対応などの課題・問題点について

- 災害時の障害者への対応を考え、避難する際に何を求めているのか、何が必要なかを調査、手話を学びコミュニケーションボードを常時携帯している。
- 避難所での女性消防団員の役割は、身近に寄り添って避難者に対応していくことである。
- 避難者に避難した人達は、全員が健常者とは限らないので、そのような方にどのようなケアができるのかを考えるのにも女性団員のソフトな面が活かされる。
- 震災を風化させないことが、災害が起きた時の知識やノウハウに活かされる。
- 大災害の時、女性消防団員は避難所で活動することになると思うので、復旧を始めた頃に何をすればいいのかを、明確に指針を示してもらえる方向になると活動しやすい。
- 大規模災害時、女性団員に活動してもらったほうがよいことが増えてきている。
- 日本全国の女性団員のネットワークがあれば災害時に役立つと思う。



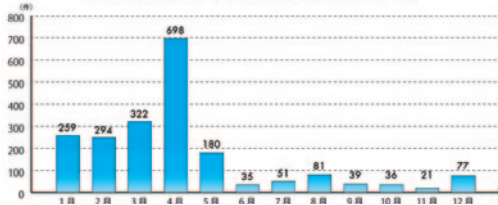
林野火災を防ごう！ ～全国山火事予防運動～

総務省 消防庁 特殊災害室

1. 林野火災の発生状況及び注意点

国内における林野火災は、例年春先に多く発生しています。平成23年中は、下図に示すとおり2月から4月までの間に1,314件の火災が集中して発生しました（年間出火件数の約60%）。春先に林野火災が多いのは、枯葉が地上に積もり、下草も枯れているうえ、降雨量が少なく、空気が乾燥し、季節風が吹くなど林野火災が発生しやすい気象条件となっており、さらに、この時期になると火入れが行われ、また、山菜採りや森林レクリエーションなどにより入山者が増えることによるものと考えられます。

林野火災の月別出火件数（平成23年中）



平成23年中の林野火災発生状況を見ると、出火件数は2,093件（前年1,392件）、焼損面積は2,071ha（同755ha）、損害額は10億1,706万円（同7,098万円）、死者は19人（同5人）となっています。平成23年においては東日本大震災により3月に大規模・広範囲の林野火災が発生したため、特に焼損面積、損害額が大幅に増加しています。

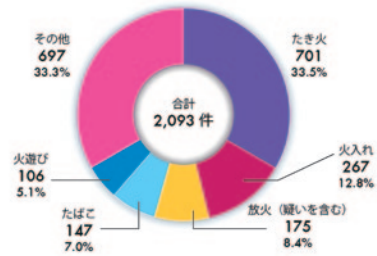
出火原因としては、「たき火」によるものが701件で全体の33.5%を占め最も多く、次いで「火入れ」、「放火（放火の疑いを含む）」、「たばこ」の順となっており、「火遊び」を入れた人為的な要因による火災の割合は、全体の約70%を占めています。

林野火災を未然に防ぐため、次のような点に注意するよう心がけましょう。

【林野火災防止のための注意点】

- ・ 枯れ草等のある火災が起りやすい場所では、たき火をしないこと
- ・ 喫煙は、指定された場所で行い、吸いながらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと
- ・ バーベキューなど火を使用する場合には、指定された場所で行い、そこを離れる時には、完全に火を消すこと
- ・ 各自のゴミは、指定された場所に捨てるか持ち帰ること
- ・ 火気を使用する場合は、周囲の可燃物の状況に十分注意するとともに消火用の水等を必ず用意すること
- ・ 強風注意報や乾燥注意報などが発表されている場合は、火気の使用は差し控えること

林野火災の出火原因別件数（平成23年中）



2. 全国山火事予防運動（3月1日～3月7日）

消防庁では、広く国民に山火事予防意識の啓発を図るとともに予防対策を強化し、森林の保全と地域の安全に資することを目的として、林野庁と共同で春季全国火災予防運動期間中の3月1日から7日までを「全国山火事予防運動」の実施期間と定め、次のような活動を通じて山火事予防を呼びかけています。

【全国山火事予防運動期間中における主な活動】

- ・ 全国の消防関係機関において林野火災の予防対策と警戒を強化
- ・ ハイカー等の入山者、地域住民、小中学校の児童・生徒等を対象とした啓発活動
- ・ 駅、市町村の庁舎、学校、登山口等への警報旗やポスターの掲示
- ・ 報道機関を通じた山火事予防思想の普及啓発
- ・ 消防訓練及び防火研修会の開催、婦人（女性）防火クラブの広報活動など

平成25年 山火事予防の標語

「山の火事 もとは小さな 火種から」

3. おわりに

森林は、地球温暖化の主な原因である二酸化炭素を吸収し、生命に必要な酸素を供給する貴重な資源であり、一度焼失してしまうと、その回復には長い年月と多くの労力を要することになります。

林野火災の大部分は、皆さん一人ひとりの注意で防ぐことができます。貴重な人命や財産を火災から守るため、林野での火気の取扱いは十分気をつけましょう。

問合わせ先

消防庁特殊災害室 石川、後藤
TEL：03-5253-7528

うちの

名物団員



埼玉県



(左が相澤貴幸さん、右が相澤信幸さんです)

羽生市消防団 第1分団第2部 団員

相澤 信幸・相澤 貴幸

仲の良い兄弟消防団員を紹介します。

相澤さん兄弟は、羽生駅付近で『麵飯飲処 華楽』という食堂を経営されています。相澤さん兄弟が勧める一品は、カロチンやカルシウムが非常に豊富で栄養価が高く古代エジプトの王様が好んで食したことから『王様の野菜』と言われ、羽生市の特産品でもあるモロヘイヤを使った『羽生王様のワシントン』で、徐々に評判が上がってきている一品です。



お店の前には、所属する消防団センターがあり、出動の際にはいち早く駆け付け、他の団員に的確に指示し、現場活動においては自ら先頭に立ち活躍される兄弟です。

神奈川県



南足柄市消防団 第6分団第3部 班長

長崎 光次

「金太郎のふるさと」南足柄市からは長崎光次さんを紹介いたします。長崎さんは地元でも有名な長崎畜産の4代目として、相州牛の育成、牛肉の卸し・小売と大忙しの毎日を送っています。

しかし一旦火災が発生すると、真っ先に詰所に駆け付け、率先して消火活動にあたります。

消防操法にも熱心に取り組んでおり、最近では分団幹部として中学校消防クラブの育成にも積極的に取り組んでいます。



福島県



新地町消防団 本部分団 分団長

加藤 宗信

加藤分団長は、持ち前の真面目で熱心な性格のため、火災を知るやいなや、誰よりも早く現場に駆け付け、陣頭指揮を執っています。

一見強面ですが、実は心優しい実直な人間で、普段は団員に気さくに話しかける親しみやすい人柄で「宗ちゃん」の愛称で呼ばれ、消防団一の豪豪でもあり、酒と会話を通して団員をまとめ、地域の安心・安全を守っています。

鹿児島県



長島町消防団 中央分団 分団長

竹山 司郎

消防団員として25年以上活躍している竹山分団長は、漁業、農業の傍ら、公民館長を務めるなど、地域からも団員からもとても信頼されています。

「しろちゃん」の愛称で呼ばれるなど、所属の中央分団はもちろん、全団員から親しまれている分団長です。

今年の操法大会では分団を県大会優勝に導くなど、強いリーダーシップを発揮することから、町内一周駅伝大会でも消防団チームの監督を務めることとなり、時には鬼監督、時には兄貴として選手とともに練習に励んでいます。

こんな「しろちゃん」は、消防団のみならず、地域の防災リーダーとして活躍が期待されています。

平成24年度第57回長島一周駅伝出発前の消防団チームメンバーと左から2番目が竹山分団長

消防団の広場

香川県



の広場

さぬき市消防団
団長

石川 廣



「はしご乗り」を活かした防火活動

はしご乗り保存会として結成したものです。高さ6.5メートルのはしご上で、次々と連続技を披露する演技は圧巻で、出初式等の消防行事だけでなく地域の行事からも出演依頼が多く、その華麗な演技を披露することにより、地域住民の防火意識のより一層の高揚を図るとともに地域活性化の一躍も担っています。

災害活動では、消火活動はもとより毎年のように通過する台風に備え、水防訓練等を実施するとともに、近い将来発生が予想される南海トラフを震源とした巨大地震に備え、地域の防災訓練に積極的に参加し地域住民のリーダーとして活動しています。

いま消防団の役割はますます多様化し、様々な要望や課題に取り組まなくてはなりません。今後は、若い力を確保し防災力の要として団員一丸となって精励していきたいと思います。

さぬき市は、香川県の東部に位置し、平成14年4月1日に近隣の5町が合併し今年度市制10周年を迎えたところです。市内には四国八十八ヶ所霊場、上がり三ヶ寺の八十六番志度寺、八十七番長尾寺、八十八番大窪寺があります。

さて、さぬき市消防団は、団長以下599名、5方面隊19分団で構成され、日夜、市民の安心安全のため災害に備えています。

さぬき市消防団には団員で組織する「はしご乗り保存会」があります。保存会は、昭和49年、戦前に先人が行っていたはしご乗りを復活させようと地元の消防団（当時警防団）が立ち上げ、昭和51年に正式に



平成24年度 全国統一防火標語

「消すまでは 出ない行かない 離れない」

2月の日本消防協会関係行事

2月6日(水)	第3回福祉共済事業等運営委員会
2月5日(火)～2月7日(木)	第12回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)
2月13日(水)～2月15日(金)	第12回消防団幹部候補中央特別研修(女性の部)
2月19日(火)	都道府県事務局長会議
2月25日(月)	第2回消防団員確保対策委員会
2月26日(火)	日本消防協会役員会議(正副会長会議、理事会、代議員会)
	全日本消防人共済会役員会議(理事会、総代会)
2月26日(火)	第65回日本消防協会定例表彰式(全国消防大会)

編集後記

皆様、新年明けましておめでとうございます。
昨年は「日本消防」をご購読頂きまして誠にありがとうございました。今年も誌面の充実に努力していき
ますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。
さて、地元では毎年雪かきに追われる時季ですが、今年は東京に来ていて雪をチラリとも見ず、今シーズ
ンは雪を見なくて終わるのかな?と想像していたところに短時間に急速に発達する「爆弾低気圧」により、東
京都心で8センチを記録する積雪となりました。やはり、首都圏では積雪による交通機関は脆弱で通行止め
やスリップ事故が相次ぎました。ひとつ感じましたことは、東京地区では除雪体制が整ってなく、道路のあ
ちこちに雪が残っていて、除雪体制が万全な雪国地方とは違うところや、スタッドレスタイヤの着用率も低
いことが一因ではないかと個人的ですが思いました。冬季は積雪だけではなく、路面が凍結することもあり
ます。勿論地域によりまちまちですが、路面が凍結することがある場所を通行する機会のある方は、事故防
止のためスタッドレスタイヤの着用をお勧めします。“備えあれば憂いなし”ですよね。但し、スタッドレス
タイヤの履いているからと言って、スピードの出しすぎは禁物ですでお気を付けてください。では、公私とも
安全運転で快適なドライブで今年1年をお過ごしください。(K・S)

お詫びと訂正

日本消防2012年12月号掲載「巻頭言」の青森県消防協会長のお名前表記に誤りがございましたので、
関係各位の方々に対しまして深くお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

正…木戸鐵雄 様 誤…木戸鐵雄 様

購読募集

購読を希望される方は、(財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,388円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見な
どをもとに、より充実した有意義なものにして
いきたいと考えておりますので、多数のご寄稿
をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十六巻第一号
平成二十五年一月五日印刷
平成二十五年一月十日発行
編集人 川手 晃
発行所 財 日本消防協会
東京港区虎ノ門二一九一十六
電話 〇三(350)一四八一(代)
印刷所
東京都文京区湯島三二二一十二
日本印刷株式会社
電話 〇三(383)六九七一(代)

消防人の火災共済の補償が増額されました 「1000倍補償を1500倍補償にUP」

B型火災共済 (加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で
火災共済金 100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で)20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円(500円単位)で加入できます。』

C型火災共済 『加入口数は、最高200口』

火災共済金 2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で)400万円を600万円に増額しました。
※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※ 加入にあたり、組合員となっていたいただくために出資金が必要になります。



生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局 (財)日本消防協会内 支部 都道府県消防協会内

消防互助年金

— 将来の自分の為の積立年金制度です —

消防互助年金は、消防団員・消防職員の皆さまの老後の安定と福祉の向上を図るために、(財)日本消防協会が、第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。



65歳まで積み立て可能な、公的年金の補完ができる制度です。

消防団の退団後・消防職の退職後も継続できます。

消防互助年金の説明に担当者がお伺いします。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 各市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

- (財)日本消防協会 年金共済部
 - 生活協同組合全日本消防人共済会
- 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-9-16
日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5
<http://www.nissho.or.jp>